



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和2年度

事業概要



日本赤十字社 福島県支部
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での感染爆発により、尊い多くの命が奪われ、現在も新たな変異株による感染拡大が収まらない状況となっております。

当支部では、横浜港に停泊したクルーズ船への救護班やDMATの派遣をはじめ、福島赤十字病院における感染者受け入れや、県内外の対策本部や保健所への支援業務などを実施してまいりました。

感染の拡大を防止するため、「赤十字ボランティアのつどい」など一部の行事は開催を断念せざるを得ませんでした。内容を限定した救急法講習会の開催や、青少年赤十字活動でのオンライン研修会の実施など、内容や方法を工夫しながら事業に取り組みました。

一方で、平成23年度から実施してまいりました東日本大震災復興支援事業が令和2年度をもって終了いたしました。

本県は、過去に経験したことのない地震、津波、原発事故による複合災害に見舞われ、特に放射線の影響により多くの県民が県内外に避難する事態となりました。

当支部では、外で遊ぶことができない子どもたちのための屋内遊び場「赤十字すまいるぱーく」事業をはじめ、被災した児童・生徒に対する学校支援事業、仮設住宅等で避難生活を余儀なくされている方々への赤十字奉仕団による支援事業や、スポーツレクリエーション事業など幅広く取り組んでまいりました。

発災後10年をもって復興支援事業としての枠組みはひと区切りとなりますが、継続が必要な事業は、当支部独自の事業として実施していく考えであります。

当支部が進める事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金（社資）であります。令和2年度におきましては、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者によるご努力とご支援、そして県民や法人の皆様のご協力により、目標額を上回ることができました。皆様に心から感謝を申し上げます。

また、現在も職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症への対応にあたっている福島赤十字病院では、県民のいのちと健康を守るため、救急医療、地域医療、災害医療の中核として、より質の高い医療の提供に引き続き努めてまいります。

福島県赤十字血液センターにおきましても、若年層への積極的な献血推進を始め、医療ニーズに即した400mL献血の推進や、血液の安定供給に努めてまいります。

今後も引き続き赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、新型コロナウイルス感染症への対応に取り組むとともに、県民福祉の向上に貢献できる各種事業を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年9月

日本赤十字社福島県支部

目次

1 災害救護	1
1 災害救護	1
2 救護員の登録	2
3 救護訓練及び研修	4
4 災害弔慰金の贈呈	5
5 救援物資の配分	5
6 災害義援金（国内）受付状況	5
7 赤十字防災ボランティアの養成	6
8 救護資材	6
2 救護看護師の養成	9
1 奨学金貸与	9
2 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦	9
3 救急法・健康生活支援講習等の普及	10
1 講習会の実施状況	10
2 講習会の開催（合計）	12
3 講習会受講者内訳	12
4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会	12
5 防災セミナー	13
6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力	13
7 県との連携事業「親子で学ぶ防災セミナー」の開催	13
8 会議、研修会	14
9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数	14
10 救急法等講師名簿	14
4 赤十字奉仕団	15
1 結成状況	15
2 福島県支部委員会	15
3 方部赤十字奉仕団連絡協議会	15
4 赤十字奉仕団指導講師	16
5 会議・研修会	16
6 協力	16
7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）	17
8 青年赤十字奉仕団第1ブロック統一キャンペーン	17
9 令和2年度赤十字奉仕団の主な活動	18
10 東日本大震災復興支援事業 地区・分区及び赤十字奉仕団による支援活動の推移	20

11	令和2年度赤十字奉仕団と団員数現況	21
5	青少年赤十字（JRC）の育成	22
1	加盟学校数とメンバー数	22
2	青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数	22
3	青少年赤十字研究推進校の指定	24
4	令和2年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員	24
5	令和2年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員・各地区指導者協議会長	24
6	会議・研修会	25
7	県内トレーニングセンターの開催	25
8	指導者研修会・講習会等の開催	26
9	福島県青少年赤十字賛助奉仕団	26
10	青少年赤十字防災教育プログラムの普及	27
11	青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集	28
12	青少年赤十字国際交流事業	28
6	社会福祉活動	29
1	高齢者福祉対策事業	29
2	保健衛生事業	29
3	地域高齢者生活支援活動	29
7	国際活動	30
1	第一ブロック支部による国際活動への参加	30
2	救援金受付状況（福島県支部取扱分）	30
3	NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）	30
4	安否調査	30
8	広報資料	31
1	日赤本社刊行物の配布	31
2	支部発行物の作成配布	31
3	ホームページ等の開設	31
4	新聞・テレビ・ラジオ広報	32
9	東日本大震災における日本赤十字社福島県支部の復興支援事業	33
	海外救援金による福島県支部復興支援事業の実施状況	34
10	医療事業	37
1	医療施設	37
2	診療科	37
3	病床数と職員数	37
4	患者数	37

5	紹介患者数	37
6	救急車両による搬入患者数	38
7	医療機器の整備（主なもの）	38
8	訪問看護ステーションの運営	38
9	各種教室及び相談	38
10	原子力災害時拠点施設の整備	38
11	血液事業	39
1	献血状況	39
2	供給状況	39
3	推進会議等の開催	40
4	献血思想の普及啓発・行事	40
5	骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況	41
6	日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰	41
12	評議員会	42
13	業務監理執行及び会計の監査	42
14	赤十字社員増強運動	43
1	赤十字社員増強運動の推進と成果	43
2	表彰	45
3	優良地区・分区の表彰	48
4	地区有功会の結成状況	48
5	日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等	49
6	組織振興課関係会議・研修会等	49
15	会計報告	50
1	令和2年度一般会計歳入歳出決算報告	50
2	令和2年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告	50
16	日本赤十字社福島県支部役員名簿	51
資料編		52
	令和2年度日本赤十字社福島県支部現勢	52

1

災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定され、その具体的内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、義援金の受付及び配分、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

令和2年度は、令和3年2月福島県沖地震災害や新型コロナウイルス感染症への対応のほか、災害に備え、救護員の確保や訓練の実施、救護資機材の整備等、救護体制の充実強化に務めた。

1 災害救護

ア 令和3年2月福島県沖地震災害

令和3年2月13日午後11時7分に福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生、福島県内に大きな被害をもたらした。当支部では地震発生直後から福島県災害対策本部に職員を派遣し、情報収集に努めるとともに、医療救護や救援物資などの支援を行う体制を整えるべく準備を開始した。日赤に対する大規模な支援ニーズはなかったが、被災された方々を支援するため、「令和3年2月福島県沖地震災害義援金」の受付を開始した。

受付期間：令和3年2月24日(水)から令和3年5月31日(月)



福島県災対本部で情報収集する支部職員



時系列で情報を整理する支部職員

イ 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部への支援

(1) 福島県からのDMAT派遣要請に応え、当支部のDMAT隊員を福島県DMAT調整本部に派遣し、福島県新型コロナウイルス感染症対策本部の支援業務を実施した。

令和2年4月7日 2名 4月8日～5月29日 1名

(2) 福島県新型コロナウイルス感染症対策医療調整本部からの要請により、職員を派遣し、調整本部（県庁）や保健所、クラスターが発生した医療機関で福島県感染症支援対策チー

1 災害救護

ムの一員として支援業務を実施した。なお、人員の派遣について福島県と「福島県感染対策支援チームの設置に関する協定」を締結した。

支部職員3名 18日間（令和2年12月20日～令和3年3月19日）

病院職員2名 11日間（令和3年1月22日～3月9日）

ウ COVID-19 JMAT 活動への参加

北海道からの要請により、旭川市内の医療機関や施設内で発生した新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年12月10日から14日まで、支部職員1名を旭川市保健所に派遣し、JMAT（日本医師会災害医療チーム）隊員として院内や施設内の対策本部の業務支援に当たった。

2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。

ア 救護員の登録

	医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	災対本部要員	血液供給要員	合計
日本赤十字社福島県支部				6			5		11
福島赤十字病院	35	17	99	69	4	17	18		259
福島県赤十字血液センター			1	4			12	24	41
合計	35	17	100	79	4	17	35	24	311

イ 令和2年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班		
医師	菅野有紀子（病院）	浅間 宏之（病院）	阪本 貴之（病院）	大須賀文彦（病院）		
看護師長	武井 明美（病院）	武田 里美（病院）	安達 明美（病院）	鈴木 牧子（病院）		
看護師	三浦 愛（病院）	柳田 美穂（病院）	泉 弘子（病院）	田島 一樹（病院）		
	武田 良平（病院）	斎藤 駿（病院）	山口 広夢（病院）	成尾ありさ（病院）		
主事	菅野 正幸（病院）	金原 昭世（病院）	菊田 基晴（病院）	山名慎一郎（病院）		
	幕田 高平（病院）	三浦 義喜（病院）	佐藤 勝行（病院）	明田 充弘（病院）		
	第5救護班	第6救護班	第7救護班	第8救護班		
医師	井上 卓哉（病院）	佐藤 法義（病院）	大原 美希（病院）	多田 靖宏（病院）		
看護師長	菅野いづみ（病院）	國分 花子（病院）	笹木恵美子（病院）	成澤 裕美（病院）		
看護師	萩原 暁美（病院）	清和 彩子（病院）	國分 朋子（病院）	長沢 恵（病院）		
	北村 慶（病院）	渡邊 義文（病院）	野坂 雄史（病院）	三浦 将克（病院）		
主事	池田 久光（病院）	渡辺 源貴（病院）	奈良輪大輔（病院）	佐藤 隆昭（病院）		
	大室 祐司（病院）	大室 康騎（病院）	葛城 美貴（病院）	村上 風太（病院）		
薬剤師	我妻 禎 二瓶 瑤子 小野優紀恵	緑上 淳一 酒井 亮 武藤 芳和	渡部 寿康 菊池 洋平 佐藤 綾香	川村 早苗 安齋 英里 黒田 彩佳	佐藤 南 古賀 彩織 矢葺 優佳	齋藤可奈子 大竹麻衣子 猪股 育美
支部 連絡調整員	石田 政幸 高橋 郁弥	久保 芳宏 徳井 優舞	松本 琢也	出口 智美 野崎 謙司 相澤真理子		
こころのケア 指導者	岩崎 睦子（支部）	高根 晴美（病院）	國分 花子（病院）	成澤 裕美（病院）		
	武田 玲子（支部）	菅野 直樹（病院）	武田 里美（病院）			

ウ 日本 DMAT 登録者

医 師	渡部 洋一 (統括 DMAT)	市川 剛	遠藤 豪一	渡部 研一	中村耕一郎	
看 護 師	奈良輪弘美 梅宮 誠	泉 弘子 武田 良平	原田 瑞穂 荒木 美和	渡邊あゆみ 鈴木 直人	鈴木 安英 田島 一樹	萩原 暁美
業務調整員	渡部 寿康 野崎 謙司	久保 芳宏 松本 琢也	橋本 健一	野田 誠	野地 幸次	葛岡 大輔

エ 福島県 DMAT 登録者

看 護 師	朝倉 恵実	山口 広夢	北村 慶
業務調整員	酒井 亮	山名慎一郎	佐藤 隆昭 渡辺 源貴

オ 日赤災害医療コーディネーターチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	渡部 洋一	災害医療コーディネーター	医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター
医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター	医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター
医 師	中村耕一郎	災害医療コーディネーター	看 護 師	野地 啓子	コーディネートスタッフ
看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ	看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ
看 護 師	奈良輪弘美	コーディネートスタッフ	看 護 師	鈴木 安英	コーディネートスタッフ
薬 剤 師	渡部 寿康	コーディネートスタッフ	事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ
事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ	事務職員	野地 幸次	コーディネートスタッフ
事務職員	松本 琢也	コーディネートスタッフ	事務職員	野崎 謙司	コーディネートスタッフ

カ 福島県災害医療コーディネーター (平成29年3月23日～)
渡部 洋一、久保 芳宏

キ 日赤原子力災害アドバイザー
中村耕一郎、海藤 隆紀

ク 原子力災害時医療中核人材研修修了者

医 師	中村耕一郎					
看 護 師	成澤 裕美 柳田 美穂	小林 洋子	岩崎 睦子	鈴木 牧子	黒沢真由美	清和 彩子
診療放射線技師	海藤 隆紀	玉根 勇樹	明田 充弘			

3 救護訓練及び研修

ア 災害救護訓練

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①日赤福島県支部災害救護訓練	7月11日(土)	福島県支部	病院44 血セ6 支部9 計59
②多数傷病者対応訓練	10月30日(金)	富岡町	病院5 支部3
③日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練	11月6日(金) 7日(土)	岩手県 盛岡市	6日 Web 訓練 病院7 支部4 7日 実働訓練 支部 2
④福島市総合防災訓練	5月16日(土)	福島市	規模縮小開催により不参加
⑤福島県支部奉仕団合同災害救護訓練	7月		中止
⑥東北ブロック DMAT 参集訓練	10月3日(土) 4日(日)	宮城県	中止
⑦福島県国民保護共同図上訓練	令和3年1月20日(水)	福島市	中止



福島県支部災害救護訓練



第1ブロック支部合同災害救護訓練 (岩手県)

イ 会議・研修会

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①第1ブロック支部 事業推進課長会議 // [臨時] 事業推進課長会議	6月12日(金) 10月7日(水)	福島県支部	Web 会議 支部1 Web 会議 支部1
②救護員育成体系検討部会第1回~6回	9月24日(木) 10月29日(木) 11月25日(水) 12月10日(木) 12月21日(月) 令和3年1月13日(水)	福島県支部	Web 会議 各回支部1
③防災教育主任指導者研修	9月25日(金)	福島県支部	Web 会議 支部2
④日本赤十字社第1ブロック日赤災害医療コーディネーター連絡会	11月6日(金)	福島県支部	Web 会議 病院1 支部1
⑤福島県立総合衛生学院災害救護実習受入れ	12月 3日(木)	福島県支部	支部3 血液センター2 学生18 教員2
⑥日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練検証会	12月9日(水)	福島県支部	Web 会議 支部1
⑦原子力災害医療アドバイザー会議	12月11日(金)	赤十字病院	Web 会議 病院2
⑧こころのケア指導者養成研修会	12月15日(火)~18日(金)	赤十字病院	参加取止め
⑨防災ボランティアリーダー養成研修会	令和3年1月16日(土)	福島県支部	Web 会議 ボランティア1
⑩福島県救急医療対策協議会	1月28日(木)	福島県支部	Web 会議 支部1
⑪日本赤十字社福島県防災支援奉仕団連絡協議会役員会	3月28日(日)	福島県支部	支部1
⑫全国赤十字救護班研修会			中止
⑬日赤災害医療コーディネイト研修会			中止

4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件数	金額
弔慰金	14件	140,000円

5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

	前年度繰越	本社等受入	購入	戻入等	被害者への配分	他支部への払出	転用等	本年度末残数
本 社	バスタオル	1,623		1,000	322			2,301
	毛布	4,297	2,000		294			6,003
	緊急セット	2,980	600		155			3,425
	安眠セット	14	600		22			592
	タオルケット	100	500					600



郡山市爆発事故被災者への配布のため、郡山市地区へ救援物資を搬送

6 災害義援金（国内）受付状況

ア 東日本大震災義援金 ※（ ）内は累計

義援金名	件数	金額
東日本大震災義援金（支部受付分）	23件（2,206件）	1,363,143円（累計822,650,082円）

イ その他災害 ※（ ）内は累計

義援金名	件数	金額
①平成28年熊本地震災害	11件（1,089件）	55,133円（累計142,712,922円）
②平成29年7月5日からの大震災	6件（171件）	62,793円（累計15,403,801円）
③平成30年7月豪雨災害	6件（555件）	38,861円（累計62,081,999円）
④令和元年8月豪雨災害	3件（176件）	6,234円（累計1,969,605円）
⑤令和元年台風第15号千葉県災害	3件（204件）	16,378円（累計6,126,442円）
⑥令和元年台風第19号災害	51件（686件）	4,655,441円（累計58,681,694円）
⑦令和2年7月豪雨災害	229件	12,795,230円
⑧令和3年2月福島県沖地震災害	163件	1,234,574円

※災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分されます。

7 赤十字防災ボランティアの養成

ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで、毎年開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

イ 登録者数

防災ボランティアリーダー 7名

防災ボランティア地区リーダー 130名

8 救護資材

ア 県支部保有の主な救護資材

(令和3年3月31日)

資材名	支部	病院	地区区分
移動式炊飯器	6組		338組
医療セット		2組	
携帯用医療セット	1個		
携帯用救護カバン	2個	3個	
医療資器材携行用カバン	16個		
ノート型パソコン	2台	3台	
モバイルプリンター	3台		
プロジェクター	3台		
折りたたみいす	10台		
診察台	2台		
トリアージシート	1組	1組	
担架	14台		79台
ヘッドランプ	31台	6台	
災害救援用ハンドビーム	2台		
ランタン(15W)	4台	6台	
ランタンスタンド	4台	1台	
投光器	3台		20台
移動発電機	9台		66台
モバイルバッテリー	2台		91台
天幕(3間×2間)	12張		7張
“(1.5間×2間)	4張		242張
エアertent(4m×5m)	2張		
“(6m×6m)	2張		
ワンタッチテント(3m×6m)	5張		310張
ドラッシュテント(フレームテント)XB	1張		
ドラッシュテント(フレームテント)MX	1張		
折りたたみ寝台	42台	40台	121台

資材名	支部	病院	地区区分
担架ベッド	2台		
患者用毛布	50枚	50枚	
携帯トイレ	3個		
トイレ用テント	1張		
ストーブ	4台		
救護所用冷暖房機器	2台		
救護員作業衣(夏用)	20着	50着	
“(冬用)	20着	50着	
ヘルメット	25個	35個	203個
雨具	98着	25着	
防寒衣	16着		
防寒服(上・下)	30着		
救護員用Tシャツ	60着	135着	
ダウンジャケット	25着	20着	
編上靴	52足	36足	
半長靴	9足	11足	
防じんゴーグル	12個	6個	
寝袋	25個		
キャンピングマット	27枚		
携行バッグ	20個	40個	
携行キャリーバッグ	16個	24個	
救護資材倉庫			203棟
ローラーコンベア(電動)	5台		
“(手動)	1台		
ハンドリフト	2台		
救急車	1台	2台	
医療派遣用自動車	1台	1台	

資材名	支部	病院	地区分区
災害救援車	8台	1台	119台
普通自動車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4折テーブル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機(157MHZ)基地局	1台		
地上移動局	16局	4局	
超短波無線機(415MHZ)基地局	1局		
地上移動局	18局	9局	
小電力トランシーバー	12台		
携帯電話・データ端末	8台		
衛星携帯電話	6台	5台	
// (可換型)	(3台)	(3台)	
// (車載)	(3台)	(2台)	
メガホン(拡声器)	8台		
携帯ラジオ	9台		
液晶テレビ	1台		
電子血圧計	1台		
医療セット置台	3台		

資材名	支部	病院	地区分区
点滴スタンド	5台		
AED一式	4台		
AED(携帯用)一式	6台	1台	112台
災害救護活動用ベスト			245着
DMAT装備一式		1式	
NBC災害対応除染セット一式	1式		
防護服セット	58組		
デジタル個人線量計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ		1台	
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ		1台	
救護用ヒップバッグ	5個	15個	
反射チョッキ	40着	20着	
担架置台	5組		
救命胴衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
台車	1台	1台	
アコーディオンスクリーン	2台		
折畳式ホワイトボード	1台		

イ 災害救護装備の充実

災害救援物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救援車購入の経費の一部を補助した。

◎災害救護装備

赤十字救援車配置(助成)	6台	①福島市北信分区 ②小野町分区 ③天栄村分区 ④泉崎村分区 ⑤鮫川村分区 ⑥西会津町分区
--------------	----	---

◎東日本大震災復興支援事業

海外救援金を財源とした東日本大震災復興支援事業として、福島県内の防災力を強化するため、地区・分区に配備した。なお、平成28年度から実施している本事業は今年度をもって終了。

復興支援事業による災害用資機材の整備

赤十字福祉車両	1	双葉町分区
救護資材倉庫	10	福島市吉井田分区1、川俣町分区1、本宮市地区1、田村市地区1、郡山市安積分区1、会津坂下町分区1、湯川村分区1、昭和村分区1、新地町分区1、いわき市小川分区1
倉庫用赤十字マークシール	2セット(大2・小2)	福島市杉妻分区1、西郷村分区1
	2(大2)	伊達市伊達分区1、飯館村分区1
	1(小2)	飯館村分区1
移動炊飯釜セット(アルミ製蓋付)	7	会津若松市地区1、福島市立子山分区1、白河市表郷分区1、鏡石分区1、西郷村分区1、檜葉町分区1、田村市滝根分区1

1 災害救護

バーナー	2	田村市大越分区1、本宮市地区1
アルミ製蓋	1	西郷村分区1
パイプテント	1	南相馬市地区1
ワンタッチテント	18	会津地区1、須賀川市地区1、福島市渡利分区1、福島市杉妻分区1、福島市飯坂分区1、福島市信夫分区1、福島市飯野分区1、二本松市岩代分区1、郡山市片平分区1、郡山市中田分区1、伊達市伊達分区1、いわき市遠野分区1、矢祭町分区1、鮫川町分区1、会津美里町分区1、柳津町分区1、檜枝岐村分区1、飯館村分区1
ワンタッチテント天幕	4	二本松市東和分区2、西郷村分区2
ワンタッチテント横幕	8	二本松市東和分区2、郡山市喜久田分区3、郡山市熱海分区3
おもり20kg（ラバーコーティング）	144	二本松市地区6、南相馬市地区6、会津地区6、須賀川市地区6、福島市杉妻分区6、福島市信陵分区6、福島市信夫分区24、二本松市岩代分区6、二本松市安達分区6、郡山市片平分区6、郡山市富久山分区6、伊達市梁川分区6、伊達市霊山分区6、伊達市月館分区6、浅川町分区6、塙町分区6、鮫川町分区6、会津美里町分区6、柳津町分区6、檜枝岐村分区6、飯館村分区6
LED 投光器+三脚	2	磐梯町分区1、柳津町分区1
発電機（カセットボンベ式）	2	郡山市喜久田分区1、会津坂下分区1
ポータブル電源	91	福島市地区1、福島市渡利分区1、福島市杉妻分区1、福島市吉井田分区1、福島市西分区1、福島市信陵分区1、福島市立子山分区1、福島市飯坂分区1、福島市松川分区1、福島市信夫分区1、福島市飯野分区1、伊達市地区1、伊達市伊達分区1、伊達市梁川分区1、伊達市保原分区1、伊達市霊山分区1、伊達市月館分区1、国見町分区1、大玉村分区1、二本松市地区1、二本松市安達分区1、二本松市岩代分区1、二本松市東和分区1、本宮市地区1、本宮市地区白沢1、郡山市郡山分区1、郡山市安積分区1、郡山市日和田分区1、郡山市熱海分区1、郡山市田村分区1、郡山市三穂田分区1、郡山市逢瀬分区1、郡山市片平分区1、郡山市喜久田分区1、郡山市湖南分区1、郡山市西田分区1、郡山市中田分区1、田村市滝根分区1、田村市大越分区1、田村市都路分区1、田村市常葉分区1、田村市船引分区1、白河市地区1、白河市表郷分区1、白河市東分区1、天栄村分区1、古殿町分区1、西郷村分区1、泉崎村分区1、中島村分区1、矢吹町分区1、棚倉町分区1、矢祭町分区1、塙町分区1、会津若松市地区1、会津若松市地区北会津1、喜多方市地区1、喜多方市高郷分区1、喜多方市熱塩加納分区1、磐梯町分区1、猪苗代町分区1、北塩原村分区1、西会津町分区1、会津坂下町分区1、湯川村分区1、柳津町分区1、会津美里町分区1、三島町分区1、金山町分区1、南会津町舘岩1、南会津町伊南1、南会津町南郷1、桧枝岐村1、相馬市地区1、南相馬市地区鹿島1、南相馬市地区小高1、新地町分区1、飯館村分区1、双葉町分区1、広野町分区1、川内村分区1、葛尾村分区1、いわき市地区小名浜分区1、いわき市地区常磐分区1、いわき市地区遠野分区1、いわき市地区小川分区1、いわき市地区好間分区1、いわき市地区久之浜大久分区1、県中地区1、会津地区1、相双地区1

2

救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

① 奨学金貸与

(人)

学校名	1年	2年	3年	4年	計
日本赤十字秋田看護大学	3	2	4	4	13
日本赤十字看護大学	—	—	1	—	1
日本赤十字北海道看護大学	—	1	—	—	1
合計	3	3	5	4	15

※ 奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

② 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦

日赤秋田看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦した。（令和3年4月入学）

支部長特別推薦選考会 10月20日(火)

応募者 5人
推薦者 3人
合格者 3人



3

救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習を通して救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症のまん延により、参加者の安全確保や感染拡大の防止のため、一部実技等の制限を設けた上で短期講習を中心とした実施となり、各講習の養成講習については実施できなかった。

1 講習会の実施状況

ア 救急法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施した。



救急法

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法				
基礎講習 (4時間)	13	247	247	247
救急員養成講習 (12時間)	—	—	—	—
短期講習	89	1,841	—	—
計	102	2,088	247	247

イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。



水上安全法

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法				
救助員養成Ⅰ (14時間)	—	—	—	—
救助員養成Ⅱ (12時間)	—	—	—	—
短期講習	16	1,006	—	—
計	16	1,006	0	0



ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法とAEDの使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行った。



幼児安全法

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習(12時間)	—	—	—	—
	短期講習	29	523	—	—
	計	29	523	0	0

エ 健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、健やかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。

「認知症サポーター養成講座」は、福島市と共同開催し地域のボランティア活動につながることを期待される。



認知症サポーター養成講座

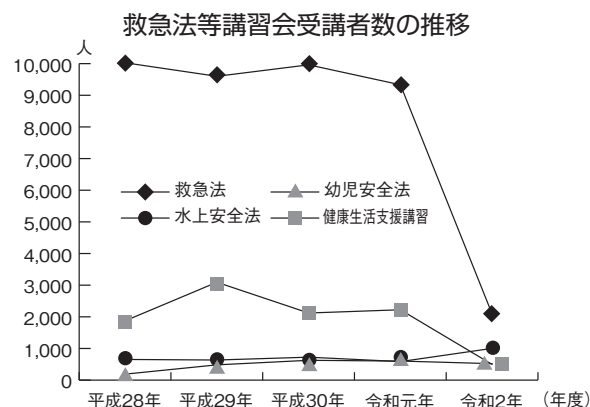
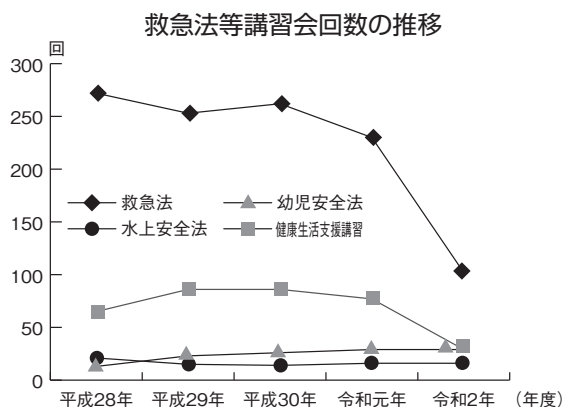
講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)	
健康生活支援講習	支援員養成講習(12時間)	—	—	—	—	
	短期	災害時高齢者生活支援講習	7	147	—	—
		認知症サポーター養成講座	7	102	—	—
		地域で支える認知症	—	—	—	—
		その他	15	249	—	—
	計	29	498	0	0	

2 講習会の開催（合計）

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	102	2,088	—	—
水上安全法	16	1,006	—	—
幼児安全法	29	523	—	—
健康生活支援講習	29	498	—	—
計	176	4,115	—	—

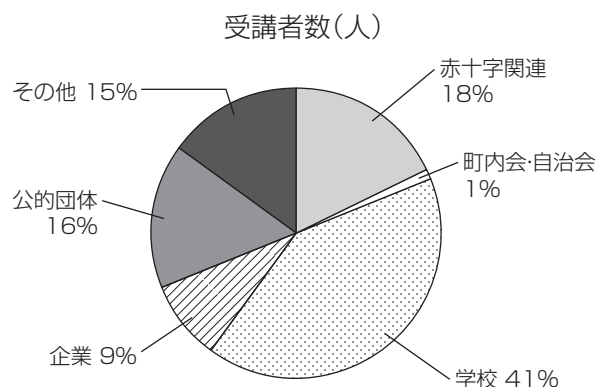
※ 復興支援事業を含む。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各講習支援員養成講習は実施していない。



3 講習会受講者内訳

	受講者数(人)
赤十字関連	748
町内会・自治会	13
学校	1,670
企業	375
公的団体	668
その他	641
計	4,115



4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内容：心肺蘇生・AEDについて短時間で学ぶ救急法短期講習や水の事故から身を守るための着衣泳等を開催した。

	開催数(回)	受講者(人)
小学校	21	803
中学校	10	229
高等学校	3	47
特別支援学校	2	5
指導者協議会	2	395
合計	38	1,479



JRC加盟校を対象とした救急法等講習会



5 防災セミナー

本社における「赤十字防災教育プログラム」の普及推進方針を受け、「防災セミナー」として地域防災に役立つ知識や技術の普及を行った。

防災セミナー開催状況

内 容	回 数(回)	受講数(人)
災害への備え（講演）	6	233
災害エスノグラフィー	－	－
DIG（災害図上訓練）	－	－
HUG（避難所運営ゲーム）	－	－
応急手当・炊き出し等	－	－
合 計	6	233

6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催がなかった。

7 県との連携事業 「親子で学ぶ防災セミナー」の開催

日 程	会 場	参加親子 ※()は総数
9月 5日(土)	福島市（福島県庁北庁舎）	20組（ 40名）
9月 6日(日)	郡山市（ビッグパレットふくしま）	18組（ 39名）
9月19日(土)	福島市（福島県庁北庁舎）	19組（ 42名）
合 計	3 回	57組（121名）



親子で学ぶ防災セミナー

8 会議、研修会

研修会名	日程	場所	参加者(人)
①第1回赤十字講習推進委員会	6月24日(水)	福島県支部	Web会議 支部1
②赤十字講習推進委員会第1ブロック会議	9月30日(水)	宮城県支部	中止
③救急法指導員養成講習 a. 事前説明会 b. 事前研修会 c. 本講習 d. 新任指導員研修	a. 9月15日(火) b. 9月16日(水) c. 10月27日(火)~29日(木) 11月10日(火)・11日(水) d. 1月13日(水)・14日(木)	福島県支部	中止
④地域包括ケア事業研修会	令和3年1月28日(木)	福島県支部	Web会議 支部1
⑤赤十字講習担当者研修会	1月29日(金)	福島県支部	Web会議 支部1
⑥水上安全法講師研究会	2月17日(水)	福島県支部	Web会議 支部1
⑦救急法・幼児安全法指導員資格継続審査	2月27日(土)・3月4日(木)	福島県支部	指導員12名
⑧救急法等指導員研修会(全体会)	2月	福島県支部	中止 資料送付
⑨健康生活支援講習講師研究会	3月1日(月)	福島県支部	Web会議 支部1
⑩救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習各講師研修会	3月1日(月)	福島県支部	Web研修

9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

講習会	ボランティア(人)			職員(人)			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救急法	52	34	86	15	9	24	67	43	110
水上安全法	12	2	14	2	0	2	14	2	16
幼児安全法	18	12	30	7	6	13	25	18	43
健康生活支援講習	2	10	12	0	14	14	2	24	26

10 救急法等講師名簿

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

講習会	氏名		
救急法	武田 玲子	久保 芳宏	石田 政幸
水上安全法	久保 芳宏	野崎 謙司	
幼児安全法	武田 玲子	車田 真美	
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	

4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念の下にそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によりボランティア活動が大幅に制限されたが、感染防止対策を徹底しそれぞれ地域のニーズに応じた様々な社会福祉活動を行った。また、災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。

1 結成状況

奉仕団種別	団 数	構 成		
		男 (人)	女 (人)	計 (人)
地域赤十字奉仕団	106	994	8,171	9,165
青年赤十字奉仕団	5	48	93	141
特殊赤十字奉仕団	34	992	217	1,209
計	145	2,034	8,481	10,515

※ 白河市ひがし赤十字奉仕団（地域）、只見町アマ無線赤十字奉仕団（特殊） 解団

2 福島県支部委員会

赤十字奉仕団福島県支部委員会は、方部連絡協議会会長と特殊奉仕団から県賛助奉仕団委員長、県防災支援連絡協議会会長で構成され、福島県支部管内の各奉仕団の活動に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

福島県支部委員会役員

役 員	氏 名	所 属
委 員 長	佐原和佳子	喜多方市赤十字奉仕団委員長
副委員長	林 美枝子	須賀川市赤十字奉仕団委員長
副委員長	松田 貞夫	福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

3 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	方部会長奉仕団名	方部名	方部会長奉仕団名	方部名	方部会長奉仕団名
福島	川俣町	須賀川・岩瀬	須賀川市	両沼	柳津町
伊達	伊達	白河市	白河	南会津	舘岩
安達	二本松	西白河	矢吹	いわき	平方部
郡山	日和田	東白川	棚倉町	相馬	休止（暫定原町）
田村	小野町	会津若松	会津若松市	双葉	休止
田村市	大越町	北会津	北会津	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	平田村	喜多方	喜多方市	県防災支援連協	小高アマ無線

4 赤十字奉仕団指導講師

(7名) (令和2年4月1日現在)

福島市	藤田 伸朔	会津若松市	栗城 美保
福島市	松田 貞夫(新) 4月1日委嘱	南相馬市	鈴木 進一
福島市	土屋 悦男(新) 4月1日委嘱	いわき市	飯間香保子
郡山市	安田 悠子		
	アドバイザー(1名)	郡山市	今泉 春雄

5 会議・研修会

名 称	日 程	会 場	参加者(人)
①青年赤十字奉仕団全国協議会	5月16日(土)・17日(日)	青奉自宅	Web 会議青奉1
②奉仕団委員長会議	5月26日(火)・27日(水)	郡山市	文書審議
③第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月6日(土)・7日(日)	県支部	文書審議
④全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月2日(木)・3日(金)	福島市・浪江町	文書審議
⑤奉仕団活動推進会議	9月15日(火)・16日(水)	本社	中止
⑥ボランティア活動充実のための体制づくり検討会	11月2日(月)	県支部	Web 会議 県副委員長1・支部1
⑦赤十字奉仕団中央委員会	12月3日(木)	県支部	Web 会議 県委員長1・支部1
⑧赤十字奉仕団方部連絡協議会会長会議・支部委員会委員長・副委員長会議	令和3年1月26日(火)	県支部	文書審議
⑨赤十字ボランティア養成研修ガイドブック勉強会	2月5日(金)・12日(金)・19日(金)	県支部	Web 研修 支部8
⑩青年赤十字奉仕団第一ブロック統一キャンペーン「楽しく学ぼう赤十字」	2月28日(日)	県支部	Web 研修・青奉1・講師1・支部1、1B他県青奉13
⑪青年赤十字奉仕団全国協議会	3月6日(土)	青奉自宅	Web 会議青奉1
⑫赤十字ボランティア活動充実に向けた研究会	3月10日(水)	県支部	Web 研修 支部1

6 協 力

赤十字新聞発送作業協力(県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会)

毎月2日間 延べ24日 275人(5月は緊急事態宣言下、コロナ感染拡大防止の為休止)



新聞折ボランティア

7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）

赤十字奉仕団指導講師等の協力を得て、赤十字奉仕団の研修会を開催している。

赤十字奉仕団名	日 程	内 容	講師派遣人数（人）
葛尾村赤十字奉仕団	7月29日(水)	赤十字奉仕団の役割と使命・災害時の備えについて	奉仕団担当 1
伊達赤十字奉仕団	11月8日(日)	赤十字について	奉仕団指導講師 1
三春町赤十字奉仕団	11月27日(金)	赤十字について 奉仕団について	奉仕団指導講師 1
第1ブロック青年赤十字奉仕団	2月28日(日)	Web 研修会 楽しく学ぼう赤十字 赤十字のおこり	奉仕団指導講師 1
郡山赤十字奉仕団	3月25日(木)	赤十字について コロナ禍での活動について	中止

8 青年赤十字奉仕団第1ブロック統一キャンペーン

「楽しく学ぼう赤十字」

期 日	令和3年2月28日(日) 13時～16時
場 所	県支部
参加形式	Web で実施（Teams を使用）
参 加 者	① 青年・学生奉仕団 12人（北海道2、秋田県1、岩手県1、宮城県2、山形県1、福島県5） ② 講演会講師 1人 ③ オブザーバー 3人 計16人 他 Web 接続不能にて不参加2人
内 容	1 赤十字について（成り立ち、赤十字の誕生、事業） 2 赤十字クイズ 3 意見交換 情報交換
背 景	昨年まで実施していた被災地訪問活動が COVID-19の影響により実施が困難になったため、オンラインで研修会を実施した。



青年奉仕団統一キャンペーン

9 令和2年度赤十字奉仕団の主な活動

コロナ禍により、高齢者施設や病院内でのボランティア等活動自粛になったが、それぞれの地域ニーズに応じた様々な社会福祉活動を行った。

当初マスクが不足したため、感染防止に取り組みながら多くの奉仕団で布マスクを作成したり、拭き掃除の雑巾等を集め、地元の学校や福祉施設・病院に届けた。また、花壇作りやクリーン作戦等屋外の活動を行うなどそれぞれ工夫して活動した。令和3年2月の福島県沖地震の際にはボランティアセンター運営に協力した奉仕団もあった。

活動名	各赤十字奉仕団名
令和3年2月福島沖地震災害における支援活動	<ul style="list-style-type: none"> 矢吹アマ無線、中畑 (矢吹町社協ボランティアセンター開設・運営に約1か月間協力) 福島県あん摩マッサージ・指圧・はり・きゅう奉仕団 (視覚障がい者の安否確認、片づけ支援)
活動資金募集	会津若松市 他
AED 緊急時貸し出し協力事業所一覧表作成	会津若松市
マスク等作成し病院や高齢者施設、地元学校に寄贈	飯野町、飯坂、湯野、福島希望、北信、荒井、佐倉、保原町、霊山町、国見町、二本松市、須賀川市、鏡石町、大越町、天栄村、会津若松市、会津坂下町、柳津町、新鶴、北会津、下郷町、原町、日赤福島ボランティア会、会津若松市防災ボランティア
雑巾等を病院や高齢者施設、学校に寄贈	二本松市、天栄村、小野町、新鶴地区、会津坂下町、内郷方部、常磐方部、飯館村、日赤福島ボランティア会
感染防止用ガウンを縫製し福島赤十字病院に寄贈	日赤福島ボランティア会、(学法) 福島県磐城第一高等学校 (JRC 加盟校) 被服部協力
令和2年熊本水害支援活動(慰問品や、義援金の送付)	川俣町、飯坂、保原町、霊山町、桑折町、二本松市、山都町、喜多方市、高田、平方部、内郷方部 他
街頭献血協力	飯野町、吉井田、大玉村、東和、二本松市、安達、岩代、郡山市、鏡石町、都路町、船引町、大越町、常葉町、平田村分区分、会津若松市、西会津町、金山町、三島町分区分、小名浜方部、勿来方部、原町、鹿島、小高、川内村 他
防災訓練	飯野町、喜多方市、北塩原村、小名浜方部
炊き出し訓練	飯野町、伊達、鏡石町、天栄村、平田村、飯館村、田島、只見、下郷、桧枝岐村、舘岩、伊南
高齢者訪問、交流	飯野町、川俣町、飯坂、湯野、福島希望、安達、白沢、浅川町、大信、塙町、喜多方市、熱塩加納町、本郷、金山町、田島、伊南、内郷方部、相馬市、葛尾村
高齢者に弁当配布・協力	荒井、白沢、中島村、古殿町、北塩原村、昭和村、南郷、舘岩、伊南
高齢者に年賀状等	大玉村、棚倉町、塙町、矢祭町、三島町、田島
高齢者施設協力	桑折町、三春町、泉崎村、高郷町、田島、下郷町、桧枝岐村、小名浜方部、鹿島
地域行事に協力	飯坂、湯野、吉井田、荒井、大玉村、白沢、都路町、表郷、川内村、表郷防災支援、大玉アマ無線、河東防災支援
学校行事に協力	熱塩加納町、湯川村、田島、只見、下郷、桧枝岐村、舘岩、伊南、小名浜方部、各地域青少年赤十字賛助
花壇作り	湯野、福島希望、伊達、梁川町、月舘町、桑折町、山都町、熱塩加納町、小名浜方部、四倉方部、広野町
清掃ボランティア	湯野、月舘町、大玉村、白沢、都路町、大越町、滝根町、常葉町、泉崎村、会津若松市、会津坂下町、柳津町、三島町、猪苗代町、下郷、内郷方部、勿来方部
チャリティバザー	須賀川市、川内村
海外たすけあい募金等	荒井、白沢、天栄村、須賀川市、石川町、喜多方市、会津坂下町、柳津町、常磐方部、小名浜方部、新地町、川内村、賛助

活動名	各赤十字奉仕団名
研修会（講習会他）	飯野、川俣町、平野、飯坂、伊達、二本松市、本宮、富久山町、須賀川市、天栄村、三春町、小野町、滝根町、常葉町、平田村、古殿町、大信、表郷、矢吹町、三神、中畑、西郷村、柳津町、三島町、北会津、河東町、平方部、内郷方部、四倉方部、原町、鹿島、小高、広野町、川内村、浪江町、葛尾村
救急法等講習指導協力	福島県赤十字安全奉仕団
病院ボランティア	福島赤十字病院ボランティア
赤十字新聞発送	県北賛助 他



柳津町奉仕団によるマスクづくり



日赤福島ボランティア会と磐城第一高校生ガウンを贈呈



須賀川市奉仕団 施設にマスク贈呈



北塩原村奉仕団 一人暮らし高齢者に配食サービス



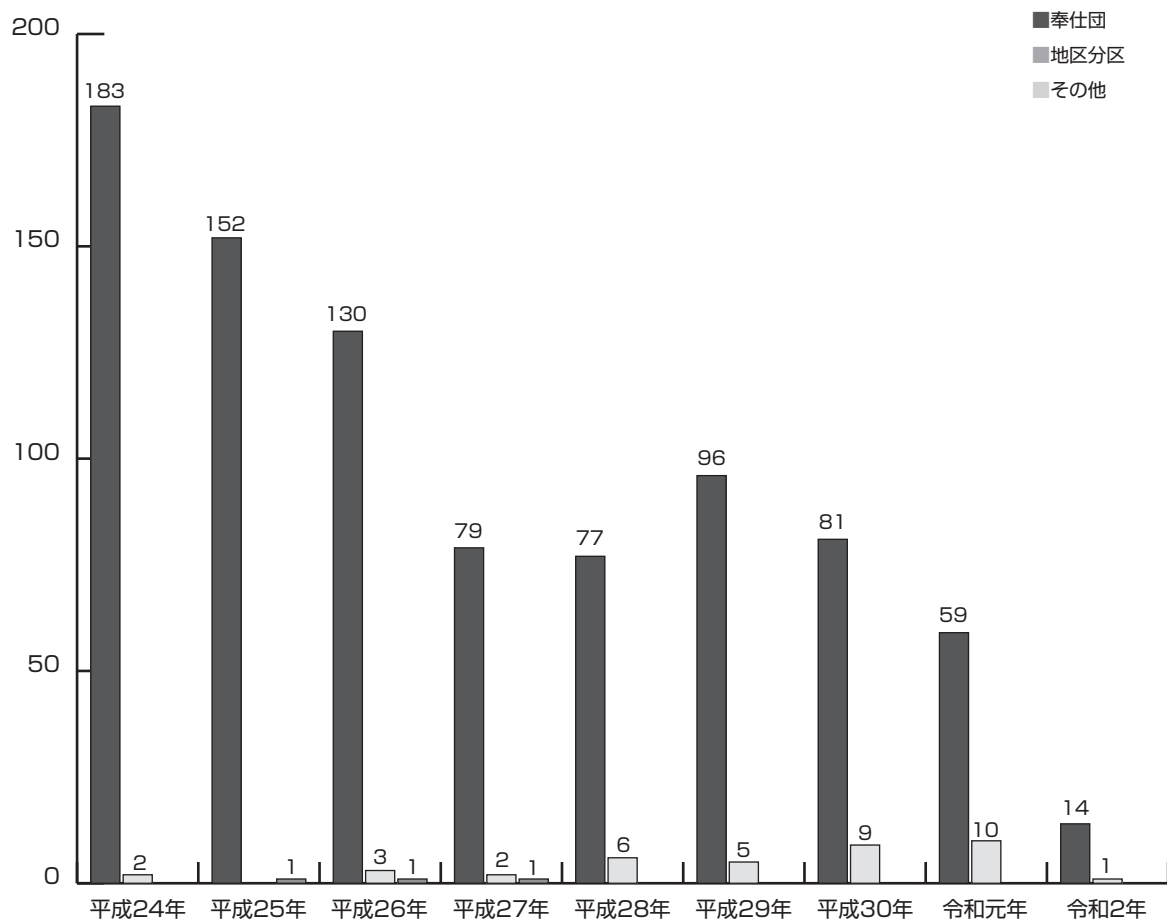
広野町奉仕団 卒園式に花いっぱい活動

10 東日本大震災復興支援事業 地区・分区及び赤十字奉仕団による支援活動の推移

海外救援金を活用した東日本大震災復興支援事業が令和3年3月末で終了した。

赤十字奉仕団は、仮設住宅や復興住宅、被害の大きかった市町又は避難先の市町で住民と共に活動した。被災者に手を差し伸べ、心に寄り添った種々のボランティア活動は被災者への大きな励ましとなった。

東日本大震災復興支援事業
地区・分区及び赤十字奉仕団による支援活動推移表



県内各地で実施した活動の例

- ・お茶会
- ・お花見会
- ・芋煮会
- ・野点（のだて）
- ・お祭りの協力
- ・郷土料理を一緒に作る会（ぼたもち、ちまき、こずゆ作り 等）
- ・ゆずみそ作り方教室
- ・一緒に郷土の史跡をめぐる会（避難先の史跡を訪ねる）
- ・花いっぱい
- ・にこにこお楽しみ会
- ・パッチワーク教室
- ・吊るし雛作成
- ・手芸教室
- ・押し花教室
- ・ちぎり絵教室
- ・ヨガ教室
- ・体操教室
- ・グランドゴルフ交流会
- ・いきいきサロン
- ・人形劇の上演
- ・オカリナ演奏
- ・防災教室
- ・炊き出し訓練
- ・救急法講習会
- ・リラクゼーション
- ・一人暮らし高齢者弁当配達 等

11 令和2年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和3年3月末現在)

地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	飯野町	0	80	80
2	川俣町	0	240	240
3	平野(たんぽぽほうし団)	0	40	40
4	飯坂	0	88	88
5	湯野	0	60	60
6	福島希望	5	17	22
7	吉井田	0	7	7
8	北信(マロニエの会)	0	30	30
9	荒井	0	70	70
10	佐倉	0	42	42
11	伊達	4	31	35
12	保原町	2	230	232
13	梁川町	0	40	40
14	月舘町	0	198	198
15	霊山町	0	60	60
16	桑折町	1	36	37
17	国見町	500	1500	2000
18	大玉村	0	34	34
19	二本松市東和	0	88	88
20	二本松市	0	42	42
21	安達	0	41	41
22	二本松市岩代	0	30	30
23	本宮市本宮	3	80	83
24	本宮市白沢	1	58	59
25	郡山市	16	29	45
26	田村町	0	72	72
27	白和田町	1	38	39
28	富久山町	3	35	38
29	須賀川市	15	140	155
30	鏡石町	1	29	30
31	天栄村	5	22	27
32	三春町	0	42	42
33	小野町(すみれ会)	0	36	36
34	都路町	0	46	46
35	船引町	0	43	43
36	大越町	15	16	31
37	滝根町	0	33	33
38	常葉町	16	32	48
39	浅川町	2	26	28
40	玉川村	2	65	67
41	平田村	7	8	15
42	古殿町	2	33	35
43	石川町	4	24	28
44	白河	140	61	201
45	大信	2	62	64
46	白河市表郷	8	15	23
47	三神	0	60	60
48	矢吹町	0	54	54
49	中畑	0	45	45
50	泉崎村	0	104	104
51	西郷村	0	204	204
52	中島村	0	29	29
53	棚倉町	0	60	60

No	奉仕団名	男	女	員数
54	矢祭町	0	40	40
55	塙町	4	166	170
56	鮫川村	5	49	54
57	会津若松市	40	687	727
58	西会津	0	41	41
59	山都町	19	43	62
60	喜多方市	0	50	50
61	高郷町	0	29	29
62	塩川町	8	50	58
63	熱塩加納町	29	42	71
64	北塩原村	20	43	63
65	会津坂下町	8	54	62
66	柳津町(ひまわり会)	2	50	52
67	湯川村	0	22	22
68	会津美里町本郷	20	30	50
69	会津美里町高田	1	46	47
70	新鶴地区	0	33	33
71	金山町	4	34	38
72	昭和村	0	26	26
73	三島町	0	35	35
74	北会津	0	38	38
75	猪苗代町	24	13	37
76	磐梯町	2	28	30
77	河東町	3	21	24
78	南会津町田島	6	169	175
79	只見町(ともしび会)	2	198	200
80	下郷町	0	48	48
81	檜枝岐村	0	21	21
82	南会津町南郷	1	0	1
83	南会津町舘岩	11	11	22
84	南会津町伊南	10	17	27
85	平方部	0	164	164
86	内郷方部	0	77	77
87	常磐方部	0	49	49
88	小名浜方部	0	159	159
89	勿来方部	0	130	130
90	いわき市四倉方部	2	140	142
91	いわき市遠野方部	0	133	133
92	好間地域	0	36	36
93	原町	1	42	43
94	鹿島	1	55	56
95	小高	2	21	23
96	相馬市	0	35	35
97	新地町	0	133	133
98	飯館村	2	15	17
99	大熊町	休止中		
100	広野町	7	28	35
101	川内村	0	173	173
102	浪江町	3	20	23
103	富岡町	休止中		
104	双葉町	休止中		
105	檜葉町	休止中		
106	葛尾村	2	22	24
①計		994	8,171	9,165

青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島県立医科大学学生	14	72	86
2	福島青年	26	13	39
3	福島学院大学	1	6	7
4	日本大学工学部	7	2	9
5	医療創生大学学生	休止中		
②計		48	93	141

特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島県赤十字安全	63	37	100
2	福島赤十字語学	2	0	2
3	いわき芸能	7	12	19
4	福島赤十字病院	3	13	16
5	日赤福島ボランティア会	26	20	46
6	会津若松市赤十字 防災ボランティア	6	30	36
7	福島県あん摩マッサージ 指圧・はり・きゅう	25	9	34
8	県北地区賛助	87	25	112
9	県中地区賛助	162	17	179
10	県南地区賛助	137	15	152
11	会津地区賛助	129	8	137
12	いわき地区賛助	29	8	37
13	相双地区賛助	117	7	124
③計		793	201	994

特殊奉仕団(アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	員数
1	福島アマ無線	13	2	15
2	会津アマ無線	8	0	8
3	表郷防災支援	9	1	10
4	矢吹アマ無線	6	0	6
5	下郷町アマ無線	17	0	17
6	白沢アマ無線(鶴島ハムクラブ)	9	1	10
7	安達防災支援	4	0	4
8	郡山アマ無線	9	1	10
9	広野町アマ無線	13	3	16
10	田村市大越防災支援	3	0	3
11	勿来アマ無線	6	2	8
12	白河アマ無線	12	0	12
13	石川アマ無線	14	0	14
14	大玉アマ無線	10	3	13
15	いわきアマ無線	2	1	3
16	二本松アマ無線	11	0	11
17	小高アマ無線	8	0	8
18	飯館村アマ無線	6	0	6
19	河東防災支援無線	19	1	20
20	岩代アマ無線	4	0	4
21	北会津町防災支援	16	1	17
④計		199	16	215

①～④ 合計	2,034	8,481	10,515
--------	-------	-------	--------

地域奉仕団	106団	9,165人
青年奉仕団	5団	141人
特殊奉仕団	34団	1,209人
計	145団	10,515人

5

青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。〔JRC：Junior Red Cross〕

① 加盟学校数とメンバー数

(令和2年9月1日現在)

	学校数	メンバー数	県内加盟率(%)
幼稚園	17	629	—
小学校	417	80,896	97.4
中学校	215	44,029	94.7
高等学校	32	4,046	29.1
特別支援学校	4	289	16.0
義務教育学校	3	492	100.0
計	688	130,381	86.6



② 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

【幼稚園】

地区名	園数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
福島	11	23	209	182	391	30
田村	1	1	7	3	10	1
西白河	1	7	64	78	142	7
相馬	4	8	49	37	86	8
計	17	39	329	300	629	46

【小学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
福島	55	556	6,400	6,103	12,503	575
伊達	19	178	1,677	1,670	3,347	189
安達	25	214	2,240	2,057	4,297	221
郡山	52	659	7,915	7,510	15,425	690
岩瀬	22	200	2,411	2,226	4,637	200
石川	9	82	936	889	1,825	89
田村	18	152	1,418	1,388	2,806	158
西白河	28	254	2,820	2,654	5,474	269
東白川	9	75	775	757	1,532	82
会津若松・北会津	27	256	2,694	2,465	5,159	248
耶麻	20	134	1,242	1,175	2,417	141
両沼	14	81	747	701	1,448	79
南会津	14	74	496	496	992	83
相馬	27	223	2,161	2,100	4,261	226
双葉	13	60	209	191	400	83
いわき	65	642	7,353	7,020	14,373	667
計	417	3,840	41,494	39,402	80,896	4,000

【中学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
福島	24	263	3,608	3,345	6,953	383
伊達	8	75	931	947	1,878	101
安達	11	91	1,302	1,231	2,533	165
郡山	26	292	3,774	3,597	7,371	355
岩瀬	13	112	1,335	1,315	2,650	174
石川	5	36	476	470	946	70
田村	9	63	764	698	1,462	114
西白河	14	120	1,467	1,469	2,936	220
東白川	4	34	387	381	768	61
会津若松・北会津	16	135	1,792	1,747	3,539	228
耶麻	10	55	635	589	1,224	98
両沼	9	48	544	506	1,050	97
南会津	7	29	300	267	567	60
相馬	11	95	1,142	1,060	2,202	173
双葉	9	26	78	96	174	66
いわき	39	342	3,995	3,781	7,776	526
計	215	1,816	22,530	21,499	44,029	2,891

【高等学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
県北	8	47	68	109	177	17
県南	15	212	1,934	1,758	3,692	105
会津	3	22	16	23	39	5
いわき・相双	6	28	49	89	138	14
計	32	309	2,067	1,979	4,046	141

【特別支援教育諸学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
県北	1	10	34	15	49	20
県南	2	53	155	78	233	120
いわき・相双	1	1	3	4	7	5
計	4	64	192	97	289	145

【義務教育学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数
郡山	2	20	234	193	427	20
相馬	1	12	40	25	65	15
計	3	32	274	218	492	35

【学校別】

	学校数	学級グループ数	男	女	メンバー数	指導者数	県内の状況（2年度）				※1 全国加盟率(元年度)		
							学校加盟率(%)	児童生徒加入率(%)	※2 全学校数(校)	※2 全児童生徒数(人)	学校加盟率(%)	児童生徒加入率(%)	
幼稚園	17	39	329	300	629	46							
小学校	417	3,840	41,494	39,402	80,896	4,000	97.4	93.2	428	86,804	36.4	31.5	
中学校	215	1,816	22,530	21,499	44,029	2,891	94.7	93.5	227	47,108	34.9	30.6	
高等学校	32	309	2,067	1,979	4,046	141	29.1	8.5	110	47,571	39.1	10.4	
義務教育学校	3	32	274	218	492	35	100.0	100.0	3	492			
特別支援教育諸学校	4	64	192	97	289	145	16.0	12.4	25	2,339	17.5	14.3	
計	688	6,100	66,886	63,495	130,381	7,258	86.8	70.7	793	184,314	35.7	25.9	

※1 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋

※2 福島県企画調整部統計課編「令和2年度学校基本調査速報」から抜粋

3 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定している。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、3年目に指導者研修会と学校公開で研究内容を発表する。

◎平成30～令和2年度

玉川村立玉川第一小学校・玉川中学校

◎令和元～3年度

相馬市立飯豊小学校・向陽中学校

◎令和2～4年度

二本松市立二本松北小学校・二本松第一中学校

4 令和2年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏名	学校名
会長	糀田 祐子	福島市立福島第一小学校
副会長	高橋 恵子	南相馬市立八沢小学校
副会長	佐藤 秀一	猪苗代町立緑小学校
副会長	湯田 重哉	福島県立安積黎明高等学校
監事	高原 昇	湯川村立笈川小学校
監事	旗野 宣久	桑折町立睦合小学校
監事	郡司 完	福島県立光南高等学校

5 令和2年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員・各地区指導者協議会長

地区名	氏名	学校名
福島	糀田 祐子	福島市立福島第一小学校
伊達	旗野 宣久	桑折町立睦合小学校
安達	菅藤 文彦	二本松市立大平小学校
郡山	松原 強	郡山市立大槻小学校
小中事務局校	吉井 史之	郡山市立片平小学校
岩瀬	高橋 哲也	天栄村立湯本小学校
石川	佐藤 康二	石川町立野木沢小学校
田村	小松 信哉	田村市立美山小学校
西白河	大杉 和規	白河市立表郷小学校
東白川	永山 美雄	棚倉町立近津小学校
会津若松・北会津	佐藤 秀一	猪苗代町立緑小学校
耶麻	渡部 寿之	喜多方市立高郷小学校
両沼	高原 昇	湯川村立笈川小学校
南会津	酒井 央	南会津町立松沢小学校
相馬	高橋 恵子	南相馬市立八沢小学校
双葉	堀本晋一郎	檜葉町立檜葉南小学校
いわき	大槻 貴	いわき市立菊田小学校
県高校	湯田 重哉	福島県立安積黎明高等学校
県北	鈴木 康隆	福島県立福島工業高等学校
県南	郡司 完	福島県立光南高等学校
会津	佐々木理夫	福島県立猪苗代高等学校
いわき・相双	吉成 広昭	福島県立平商業高等学校

6 会議・研修会

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
① JRC 担当者会議	5月18日(月)	福島県支部	Web 会議 支部2
② JRC県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月14日(木)	福島県支部	文書審議
③ 県高等学校 JRC 連絡協議会春季総会	6月	郡山市	中止
④ 県高校トレーニング・センター	7月10日(金)~12日(日)	猪苗代町	中止
⑤ 県指導者講習会	8月5日(水)~6日(木)	郡山市	中止
⑥ 福島県支部主催国際交流事業高校生メンバーフィリピン派遣	8月11日(火)~17日(月)	フィリピン	中止
⑦ 全国指導者協議会総会	9月10日(木)	福島県支部	Web 会議 会長1
⑧ 高等学校 JRC 県大会	11月6日(金)	郡山市	高校生メンバー・教諭
⑨ JRC県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月12日(木)	福島県支部	各地区会長20
⑩ 国際交流集会	11月15日(日)	福島県支部	Web 集会 高校生メンバー3・顧問1・支部2
⑪ 第1ブロック JRC 研究会	11月16日(月)~17日(火)	盛岡市	中止、資料送付
⑫ 指導主事研究会	令和3年1月8日(金)	参加者所属先	Web 開催 指導主事1
⑬ JRC 県指導者協議会役員会	2月4日(木)	福島県支部	役員5
⑭ JRC スタディー・プログラム	3月20日(土)	福島県支部 いわき市	Web 開催 高校生メンバー1、 指導スタッフ(教師)2、支部2
⑮ フィリピン青少年赤十字との交流会	3月27日(土)	福島県支部 各高校	Web 開催 県内高校生メンバー 6校から31、顧問6、支部3、 フィリピン31

7 県内トレーニングセンターの開催

トレーニングセンターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指している。

令和2年度に計画した下記地区のトレーニングセンターは、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

【小中】

福島・伊達・安達（7月） 郡山（8月） 西白河（7月） 北会津・会津若松（7月）
耶麻（8月） 両沼（8月） いわき（8月）

【高校】

県高校（7月） 県北（8月） 県南（8月） いわき・相双（8月）

8 指導者研修会・講習会等の開催

地区	日程	内容	会場	参加人数	主な内容
福島	4月28日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
伊達	4月22日(水)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
安達	4月10日(金)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
福伊安	7月31日(金)	指導者講習会			中止
郡山	4月7日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
岩瀬	5月7日(木)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
石川	6月8日(月)	総会・研修会			中止
田村	4月30日(木)	総会・研修会	船引小	25名	総会のみ実施
//	6月16日(火)	指導者講習会			中止
西白河	4月2日(木)	総会・研修会	表郷小	36名	総会のみ実施
//	6月19日(金)	指導者研修会	玉川第一小	4名	
東白川	4月2日(木)	総会・研修会	表郷小	10名	総会のみ実施
会津	5月7日(木)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
//	7月31日(金)	指導者講習会			中止
耶麻	4月7日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
//	8月3日(月)	指導者講習会			中止
両沼	4月7日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
南会津	4月3日(金)	総会・研修会	御蔵入交流館	21名	総会のみ実施
//	7月30日(木)	指導者講習会			中止
相馬	5月18日(月)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
いわき	5月29日(金)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
//	7月31日(金)	指導者講習会			中止
高等学校	5月12日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議

9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織である。

ア 団員数 6地区 合計 750名 (令和2年8月1日)

県北 111名 県中 183名 県南 153名
会津 138名 いわき 37名 相双 128名

イ 会議等

会議名	場所	参加者	期日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月 文書審議
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国会長1、県委員長1、他1	11月 文書審議
③青少年赤十字詩・100文字提案作品審査協力	日赤県支部	団員	10月～1月
④NHK 海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月 中止
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤県支部	全国役員、県委員長等	2月 文書審議

10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

ア 各教育事務所における県教育委員会との共催 防災教育研究協議会

		日 程	会 場	スタッフ (人)
1	県北教育事務所	8月4日(火)	コミュタン福島	指導員 1
2	いわき教育事務所	8月20日(木)	コミュタン福島	指導員 1
3	県南教育事務所	8月28日(金)	コミュタン福島	指導員 1
4	県中教育事務所	9月10日(木)	コミュタン福島	指導員 1 賛助奉 1
5	会津教育事務所	9月15日(火)	湯川村公民館	指導員 1
6	相双教育事務所	10月27日(火)	福島ロボットテストフィールド	指導員 1
7	南会津教育事務所	11月30日(月)	御蔵入交流館	指導員 1

イ 各学校での防災教育 (児童・生徒向け防災教育プログラム)

		日 程	学 校 名	内 容	参加者数 (人)
1	7月15日(水)	伊達市立伊達東小学校	非常食体験、防災授業「風水害」	児童生徒88人・教員9人	
2	7月20日(月)	あざみ野幼稚園学童クラブ	非常食体験・きけんはっけん	児童生徒12名・教員3名	
3	7月21日(火)	あざみ野幼稚園	きけんはっけん	園児30名・教員2名	
4	8月28日(金)	白河市立五箇中学校	非常食体験、防災授業「風水害」、救急法	生徒30名・教員8名	
5	9月3日(木)	相馬市立山上小学校	非常食体験、いえまですごろく	児童生徒12名・教員1名	
6	9月8日(火)	福島市立東湯野小学校	防災授業「風水害」	児童生徒16名・教員3名	
7	9月9日(水)、 10日(木)	いわき市立江名中学校	BCW1・4、非常食体験、救急法、 避難所運営ゲーム	児童生徒41名・教員5名	
8	9月11日(金)	石川町立沢田小学校	非常食体験、災害時シュミレーション、 防災授業「風水害」	児童生徒67名・教員16名	
9	10月5日(月)	南会津町立館岩中学校	非常食体験、防災授業「風水害」、BCW1	児童生徒28名・教員13名	
10	10月30日(金)	喜多方市立会北中学校	非常食体験、BCW4	児童生徒50名・教員7名	
11	11月2日(月)	いわき市立上遠野中学校	非常食体験、BCW4	児童生徒80名	
12	11月5日(木)	いわき市立久ノ浜第一小学校	非常食体験、BCW1	児童生徒16名・教員3名	
13	11月19日(木)	伊達市立大石小学校	非常食体験、防災授業「風水害」、きけんはっけん	児童生徒5名・教員5名	
14	2月27日(土)	いわき市立錦公民館	非常食体験、BCW3、いえまですごろく	児童生徒9名・教員9名	

※BCW = 「防災コミュニケーションワークショップ」の略
 BCW1…竹ひごタワー、BCW2…ストーリーを完成させよう、BCW3…ドローイング・チャレンジ、
 BCW4…自分だったらどうする

11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っている。

ア 募集期間 令和2年4月1日～令和2年10月30日（応募期間延長）

イ 募集テーマ 詩 「いのちの詩・愛の詩」
100文字提案 「わたしにできるボランティア」
「わたしのふるさと」
「わたしが感動したことばやできごと」

ウ 応募校数・応募点数 39校 3,030点

エ 作品審査会(2次) 令和3年1月13日(水)

場所：日本赤十字社福島県支部

オ 入賞作品

社長賞 1点

支部長賞 4点

県指導者協議会長賞 1点

県賛助奉仕団委員長賞 1点

学校賞 5校 学校奨励賞 4校

優秀賞 14点 佳作 102点

入選 214点

カ 最優秀作品表彰式 新型コロナウイルス感染防止のため開催せず、社長賞を学校で伝達した。



社長賞：(学法)松韻学園福島高等学校
鈴木美紀さん

12 青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的な事業として、本県の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣したり、海外の赤十字メンバーの受け入れを行ったりしている。

ア 日本赤十字社福島県支部主催国際交流事業

高校生メンバーフィリピン派遣（8月）

*新型コロナウイルス感染拡大により中止（本事業は令和2年度をもって休止）

イ 青少年赤十字国際交流集会（本社主催）

「JRC/RCY International Youth Exchange Programme 2020 on the WEB」

本社主催のWEBによる国際交流集会に3名の高校生が参加した。



ウ フィリピン Youth メンバーとのオンライン交流会

フィリピン派遣の中止を受けて、WEB による交流会を開催した。本県高校生メンバー31名、フィリピンメンバー31名が参加し、互いの活動報告やコロナに関する情報交換を行った。



エ 青少年赤十字活動資金

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から「フィリピン青少年赤十字教育等支援事業」「青少年赤十字一円玉募金」への活動資金の寄託があった。

前年度繰越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度末残高
206,380円	38,650円	0円	245,030円

6 社会福祉活動

1 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展覧会支部長顕彰
22地区・分区で開催

2 保健衛生事業

- 赤十字健康講演会
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催はなかった。

3 地域高齢者生活支援活動

- にこにこ健康教室
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催はなかった。

7

国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各国赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

① 第一ブロック支部による国際活動への参加

第一ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

第一ブロック国際活動参加費		総 額	福島県支部の拠出額
救急法普及 支援事業	東ティモール	1,500,000円	247,000円
	ラオス	3,000,000円	492,000円
青少年赤十字 海外支援事業	ネパール	1,250,000円	204,000円
	バヌアツ	1,250,000円	204,000円
合 計		7,000,000円	1,147,000円

② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救 援 金 名	件 数	金 額
中東人道危機救援金（平成27年度から累計）	24件	285,430円

③ NHK海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

【福島県支部実績】

全 体	780件	8,806,576円
（内訳）支部受付	262件	2,300,420円
本社郵便為替	518件	6,506,156円

◎当支部主催による街頭募金については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実施しなかった。

④ 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界192カ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和2年度 依頼なし

8

広報資料

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおりである。

① 日赤本社刊行物の配布

赤十字 NEWS（毎月1日発行）	35,900部
青少年赤十字指導情報	2,250部
青少年赤十字機関誌（小）	1,400部
青少年赤十字機関誌（中・高）	850部
DVD 赤十字この1年2020	

② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料	
赤十字社員加入と募集の手引き	27,500部
赤十字のしおり（Q & A）	7,500部
赤十字社員増強運動用チラシ	677,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第45号	377,000部
イ JRC 用資料	
青少年赤十字活動4つの勧め	3,000枚
青少年赤十字研究推進校紀要	500部
青少年赤十字加盟校名簿	1,000部
うつくしま JRC フォトニュース第54号・55号・56号	各2,700枚
JRC ふくしま（青少年赤十字福島県指導者協議会発行）第64号	2,000部
// 第65号	2,500部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	5,000部

③ ホームページ等の開設

ホームページ	https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima (平成14年3月20日開設、令和3年4月1日リニューアル・URL 変更)
インスタグラム	https://www.instagram.com/nissekifukushima (平成29年12月1日開設)

ツイッター <https://twitter.com/nisseki07>
(平成29年12月1日開設)

フェイスブック <https://www.facebook.com/日本赤十字社福島県支部-1896501787332037/>
(平成29年12月1日開設)

4 新聞・テレビ・ラジオ広報

- ア 新聞広告（福島民報社・福島民友新聞社） 事業報告、防災月間（9月）
- イ 本社製作テレビCM（FTV・FCT・KFB・TUF） 赤十字運動月間（5月）
- ウ ラジオ広告（ラジオ福島）
ラジオ福島「命を守るキャンペーン～ふくしまゼロアクション」協賛
ラジオスポット 20秒×52回

このほか、県内で開催される健康まつり等のイベントに積極的に参加し、「人道・博愛」の精神の普及に努めているが、新型コロナウイルス感染拡大のため全て中止となった。

9

東日本大震災における日本赤十字社福島県支部の復興支援事業

東日本大震災による被害の甚大さ・深刻さはニュースを通じて世界に伝えられ、それを見た市民からの自発的な寄付金が海外の各国赤十字・赤新月社へ発災直後から多く寄せられました。

この自発的な市民からの多額の寄付金は、100を超える国や地域の赤十字・赤新月社を通じて海外救援金として日本赤十字社へ寄せられ、日本赤十字社はこの海外救援金（約1,000億円）を原資に、東日本大震災の被災者と被災地に対して、復興支援の活動を推進しました。

日本赤十字社福島県支部では、被災者・被災自治体へのニーズ調査を基に、震災直後より「健康増進」、「生活再建」、「教育支援」を柱とし、ボランティアなどの協力を得ながら、子どもからお年寄りまでを対象とした13種類の復興支援事業を実施してきました。

事業名	年 度										
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
健康増進											
赤十字にこここ健康教室	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
赤十字救急法等講習会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
赤十字健康講演	●	●	●								
避難地域住民交流会		●	●	●	●	●					
スポーツ・レクリエーション		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
生活再建											
地区・分区および赤十字奉仕団による復興支援活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
復興イベントの開催		●	●	●							
教育支援											
赤十字すまいるぱーく	●	●	●								
赤十字すまいるキャンプ				●							
被災学校支援事業		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
「青少年赤十字詩・100文字提案」作品募集	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
青少年赤十字 防災教育プログラム						●	●	●	●	●	●
被災した高校生の国際交流事業			●	●	●	●	●	●	●	●	●

海外救援金による福島県支部復興支援事業の実施状況

健康増進

身体とこころの健康づくりを応援する健康増進事業を実施。

» 赤十字にこここ健康教室（2011年度～2020年度）

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施実績なし

仮設住宅などで不自由な生活を送っている高齢者を対象に、生活不活発病の予防や孤立を和らげる教室を開催。

〈実績〉2011年度～2019年度 162回



» 赤十字救急法等講習会（2011年度～2020年度）

仮設住宅の集会所に設置されたAEDの使用方法や健康づくりに関する講習会を、救急法等指導員により実施。

〈実績〉2011年度～2019年度 458回

2020年度 38回



» 避難地域住民交流会（2012年度～2016年度）

避難生活で分散した地域住民のつながりを蘇らせる機会として、避難前の自治体ごとの住民の交流会を開催。

〈実績〉2012年度～2016年度 36回 参加者数4,276人



» スポーツ・レクリエーション（2012年度～2020年度）

被災者の運動不足防止やストレス解消のための野外活動（ノルディックウォーキング、パーク・ゴルフ、スポーツ大会など）を実施。

〈実績〉2012年度～2019年度 75回

2020年度 3回



» 赤十字健康講演（2011年度～2013年度）

福島第一原発事故により避難し健康不安を感じている方に、専門家や医師による講演会を開催。

〈実績〉2011年度～2013年度 11回





生活再建

被災された方の日常生活を取り戻し、コミュニティを再生するために必要な生活基盤づくりを支援。

» 地区・分区および赤十字奉仕団による復興支援活動（2011年度～2020年度）
地区・分区職員や奉仕団員が仮設住宅などを対象に支援活動を行い、被災者やコミュニティを支援。また、地域での防災活動や福祉支援活動などを通じた奉仕団の充実・強化への取り組み。

〈実績〉 2011年度～2019年度 877回
2020年度 160回



» 復興イベントの開催（2012年度～2014年度）

被災者の心身の健康の不安を軽減するため、ライブや映画上映などのイベントを開催。

〈実績〉 2012年度～2014年度 20回



教育支援

次世代を担う子どもたちの将来の基盤づくりに貢献するため、震災により教育現場にて失われた物や場所、安心を提供する教育支援を実施。

» 被災学校支援事業（2011年度～2020年度）

学校が被災または福島第一原発事故の影響で避難し仮設校舎などに通う生徒・児童に、音楽や演劇などに触れる機会を提供。

〈実績〉 2012年度～2019年度 205件
2020年度 6件



» 「青少年赤十字 詩・100文字提案」作品募集（2011年度～2020年度）

生徒・児童が、福島第一原発事故を体験して気づいたこと、考えたことなどを表現した詩・100文字作品を募集し作品集を作成。

〈実績〉 2011年度～2019年度 応募584校 作品数48,858点
2020年度 応募 39校 作品数 3,030点



» 青少年赤十字 防災教育プログラム (2016年度～2020年度)
 世界でも類をみない複合災害を経験した福島県内の子どもを守るために、県教育委員会との連携の下、「青少年赤十字防災教育プログラム」の学校現場への普及・活用のため、指導者の養成や防災教室開催の支援。



〈実績〉 2016年度～2019年度 防災教室48回、指導者養成講習会32回
 2020年度 防災教室14回、指導者養成講習会 7回

» 被災した高校生の国際交流事業 (2013年度～2020年度)
 青少年赤十字加盟校、被災した学校の高校生を海外の赤十字加盟国へ派遣、赤十字加盟国の青少年赤十字メンバーを県内に招致して、相互に交流する場を提供。



〈実績〉 2013年度～2019年度 派遣5回 (2013・2014・2015・2016・2018年度)
 招致2回 (2017・2019年度)
 2020年度 Web 交流1回

» 赤十字すまいるぱーく (2011年度～2013年度)
 福島第一原発事故による放射線の影響に不安を感じて屋外活動ができない未就学児に、室内で思いっきり運動のできる場を提供。

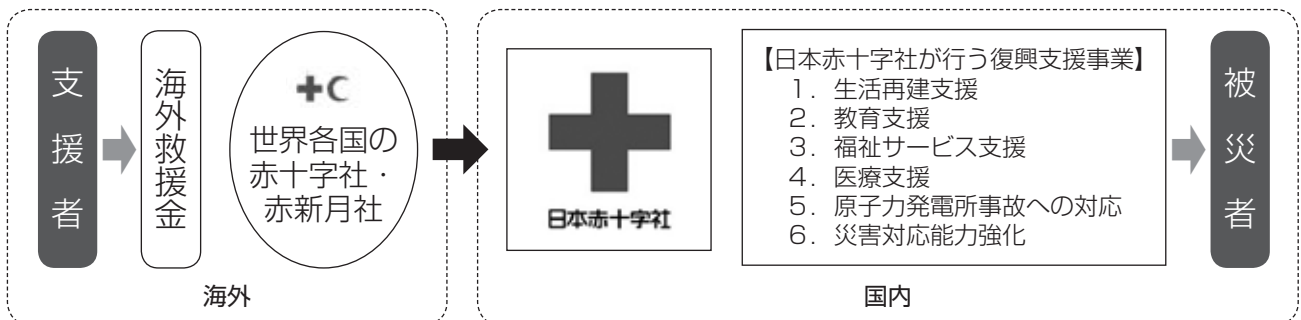


〈実績〉 2011年度～2013年度 来場者数86,584人

» 赤十字すまいるキャンプ (2014年度)
 福島第一原発事故による放射線の影響に対する不安からストレスを感じている児童・生徒に、自然体験や仲間とのふれあいを持つ場を提供。



〈実績〉 2014年度 2014年8月 北塩原村 参加者数29人



東日本大震災海外救援金の流れ

10 医療事業

日本赤十字社の病院は、赤十字社の使命を達成するため、(1)災害時における医療救護 (2)巡回診療その他の地域福祉活動 (3)保健活動 (4)一般診療等の事業を行っている。

福島赤十字病院は、地域社会の公的医療機関としての役割の他、救急病院、地域災害医療センター、福島県原子力災害拠点病院として指定され、また、医師の臨床研修及び看護師の養成にも協力している。

1 医療施設

福島赤十字病院（福島市八島町7-7）

2 診療科（25科）

内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

3 病床数と職員数

許可病床数 296床〔一般 268床 HCU 12床 感染症 6床 精神 10床〕
職員数 604名〔医師 69名（研修医16名含む） 看護師 314名 医療技術員 99名 その他 122名〕

4 患者数

	外 来			入 院		
	令和2年度(人)	令和元年度(人)	前年度比増減(%)	令和2年度(人)	令和元年度(人)	前年度比増減(%)
総患者数	132,646	147,463	-11.2	81,831	92,029	-12.5
新患者数	8,232	10,539	-28.0	6,452	7,088	-9.9
1日平均	581.8	614.4	-5.6	224.2	251	-12.0
平均在院日数(一般)				11.4日	11.8日	-0.4日
病床利用率				70.7%	79.5%	-8.8

5 紹介患者数

	令和2年度	令和元年度	前年度比増減
紹介患者数(人)	5,989	7,256	-1,267
紹介率(%)	98.5	95.0	3.5

6 救急車両による搬入患者数

	令和2年度	令和元年度	前年度比増減
患者数(人)	2,888	3,242	-354
内入院患者数(人)	1,524	1,624	-100

7 医療機器の整備（主なもの）

品名	メーカー	規格・型式	台数
超音波診断装置	キャノン	Aplio i800	1台
手術用顕微鏡	ライカマイクロシステムズ	Leica M530 OHX	1台
移動型CアームX線装置	島津製作所	OPESCOPE ACTENO	1台
遺伝子解析装置	アークレイ	アイデンシー IS-5320	1台

8 訪問看護ステーションの運営

訪問延べ回数 3,916回

9 各種教室及び相談

ア 各種教室

・母乳栄養と妊娠中の栄養	94名	・父親のための子育てクラス	76名
・もうすぐお母さんクラス	85名	・孫育てクラス	0名
・マタニティーヨガクラス	0名	・お産後サークル	0名
・同伴分娩クラス	0名	・家族でいいお産	8名

イ 相談

・医療相談 7,045件

ウ 各種検診・保健指導

・乳児検診（30日健診）	201名	・福島市10ヵ月検診	31名
・各種ドック	325名	・協会けんぽ生活習慣病予防健診	954名
・市町村民健診	526名	・妊婦健診	1,841名
・小児健診（福島県県民健康管理調査）	4名	・その他の健診	2,193名
・内部被ばく検査	11名	・甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査）	62名
・保健指導	441名		

10 原子力災害時拠点施設の整備

原子力災害拠点病院としての機能を拡充するため、令和3年3月に災害対策本部機能や研修室を備えた施設（3階建）が原子力災害対策事業費補助金により整備された。本施設は原子力災害医療に係る各種研修等にも活用される。



11

血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

① 献血状況

令和2年度の全血献血量は、200mL換算で対前年度比99.1%の102,561バッグであった。成分献血は対前年度比98.2%であった。200mL献血については、推進により400mL献血が浸透してきており対前年度比76.3%と減少し、400mL献血比率は、対前年度比0.8ポイント増の97.4%となっている。

単位：バッグ

献血方法	令和2年度			令和元年度			平成30年度	
	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)
成分献血	24,272	31.8	98.2	24,720	32.0	109.9	22,484	29.2
血小板献血	9,099	11.9	92.1	9,883	12.8	85.5	11,554	15.0
血漿献血	15,173	19.9	102.3	14,837	19.2	135.7	10,930	14.2
全血献血	51,963	68.2	98.7	52,625	68.0	96.6	54,464	70.8
400mL献血 ^(イ)	50,598	66.4	99.5	50,835	65.7	97.5	52,144	67.8
200mL献血 ^(イ)	1,365	1.8	76.3	1,790	2.3	77.2	2,320	3.0
合計	76,235	100.0	98.6	77,345	100.0	100.5	76,948	100.0
全血の単位換算数 【(ア×2)+(イ×1)】	102,561		99.1	103,460		97.0	106,608	
400mL献血比率 【ア/(ア+イ)】	97.4%			96.6%			95.7%	

※ 令和2年度の400mL献血比率の状況は、医療需要と同程度の約97%で推移している。

② 供給状況

令和2年度は、232,699単位（200mL換算）の血液製剤を供給した。対前年度比については、血小板製剤が91.7%、血漿製剤が87.0%、赤血球製剤が96.0%、総供給単位の合計で93.0%となっており、全ての製剤で減少となった。

製剤別	令和2年度			令和元年度			平成30年度	
	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)
血小板製剤	102,480	44.0	91.7	111,760	44.7	97.0	115,260	45.1
血漿製剤	25,586	11.0	87.0	29,408	11.8	88.4	33,263	13.0
赤血球製剤	104,633	45.0	96.0	108,964	43.6	101.8	106,997	41.9
合計	232,699	100.0	93.0	250,132	100.0	97.9	255,520	100.0

(単位：200mL単位換算。血漿製剤は FFP-LR120を1単位、同240を2単位、同480を4単位に単位換算)

3 推進会議等の開催

会議名	日程	場所
①令和2年度保健所等薬務担当課長等会議		文書審議
②令和2年度福島県献血推進協力会総会	7月28日(火)	福島県薬剤師会館
③令和2年度福島県献血推進協議会		文書審議

4 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期間：令和2年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、市町村に配布、県内各方部において、赤十字奉仕団、青少年赤十字メンバー等と共に献血を呼びかけた。

イ 「献血感謝デー」等の開催

いわき出張所および郡山駅前出張所において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催した。

場所	期間	献血者数
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和3年3月6日(土)～20日(土)間の7日	296
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和3年2月17日(水)～21日(日)	274

※ いわき出張所の開所日は毎週 火・木・土曜日

ウ 夏休み血液センター親子見学会

新型コロナウイルス感染症対策から未開催とした。

エ キャンペーン

① 「全国学生クリスマス献血キャンペーン2020」

主催：全国学生献血推進実行委員会

期間：令和2年12月1日～12月31日

② 令和3年「はたちの献血」キャンペーン

主催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期間：令和3年1月1日～2月28日



愛の血液助け合い運動



全国学生クリスマス献血キャンペーン

5 骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況

骨髄移植推進財団が推進する骨髄バンク事業のうち、日本赤十字社は造血肝細胞提供支援機関の指定を受け、骨髄提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髄バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、県骨髄バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度県内で48回実施され、343人が登録した。

福島県の総登録者数 14,734人

6 日本赤十字社有功章社員等贈与規則に基づく表彰

継続的に献血に協力いただいた献血団体及び献血推進団体に対し、その功労を称え感謝の意を表すため表彰した。

	献血団体功労表彰	献血推進団体功労表彰
社長感謝状	14	—
金色有功章	8	5
銀色有功章	20	2
支部長感謝状（金枠）	35	1
支部長感謝状（銀枠）	40	4

12 評議員会

- (1) 令和2年7月 令和2年度第1回評議員会（文書審議）
- 議案第1号 令和元年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について
 - 議案第2号 令和元年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について
 - 議案第3号 令和元年度福島県赤十字血液センター事業報告について
- (2) 令和3年2月 令和2年度第2回評議員会（文書審議）
- 議案第1号 令和3年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について
 - 議案第2号 令和3年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について
 - 議案第3号 令和3年度福島県赤十字血液センター事業計画について
 - 議案第4号 日本赤十字社福島県支部監査委員の選出について

13 業務監理執行及び会計の監査

令和2年6月26日、監査委員により、次のとおり令和元年度業務監理執行並びに会計について書面による監査が実施された。

令和元年度日本赤十字社福島県支部の業務監理執行及び会計の監査

令和元年度福島赤十字病院の業務監理執行及び会計の監査

令和元年度福島県赤十字血液センターの業務監理執行の監査

14 赤十字社員増強運動

① 赤十字社員増強運動の推進と成果

ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

	社 員 数
社員（個人）	3,006名
社員（法人）	865法人
合 計	3,871名・法人

※ 社員…赤十字の理念と活動に賛同いただき、社費として年2,000円以上ご協力の方

イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和2年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達 成 率
一 般 社 資	259,104,000円	301,752,423円	116.5%
法 人 社 資	10,000,000円	21,837,377円	218.4%
合 計	269,104,000円	323,589,800円	120.2%

ウ 令和2年度社資実績額表

	地 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
市 地 区	福 島 市 地 区	37,513,000	32,854,281	2,615,552	35,469,833	94.6	35,076,504
	伊 達 市 地 区	9,834,000	9,892,150	50,000	9,942,150	101.1	10,081,580
	二 本 松 市 地 区	8,362,000	8,325,365	1,100,000	9,425,365	112.7	7,921,700
	本 宮 市 地 区	4,108,000	3,324,510	0	3,324,510	80.9	3,516,550
	郡 山 市 地 区	41,868,000	38,934,810	100,000	39,034,810	93.2	39,037,479
	田 村 市 地 区	5,562,000	5,327,100	0	5,327,100	95.8	5,645,940
	須 賀 川 市 地 区	8,917,000	8,710,150	0	8,710,150	97.7	7,903,224
	白 河 市 地 区	8,198,000	7,210,947	5,389	7,216,336	88.0	7,130,419
	会 津 若 松 市 地 区	16,073,000	12,583,499	3,450,000	16,033,499	99.8	15,702,812
	喜 多 方 市 地 区	7,254,000	7,140,423	0	7,140,423	98.4	7,682,706
	南 相 馬 市 地 区	6,576,000	6,569,533	0	6,569,533	99.9	6,659,163
	相 馬 市 地 区	4,226,000	4,099,950	89,000	4,188,950	99.1	4,401,600
	い わ き 市 地 区	42,438,000	39,175,159	0	39,175,159	92.3	42,223,250
	市 地 区 合 計	200,929,000	184,147,877	7,409,941	191,557,818	95.3	192,982,927
	県 北	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)
川 俣 町 分 区		2,418,000	2,381,900	0	2,381,900	98.5	2,391,000
桑 折 町 分 区		1,851,000	1,806,800	0	1,806,800	97.6	1,799,700
国 見 町 分 区		1,723,000	1,835,400	0	1,835,400	106.5	1,996,300
大 玉 村 分 区		985,000	1,076,500	0	1,076,500	109.3	1,046,500
県 北 地 区 計		6,977,000	7,100,600	0	7,100,600	101.8	7,233,500

	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
県 中	三 春 町 分 区	2,416,000	2,186,500	0	2,186,500	90.5	2,187,000
	小 野 町 分 区	1,580,000	1,459,000	0	1,459,000	92.3	1,568,500
	鏡 石 町 分 区	1,653,000	1,606,000	0	1,606,000	97.2	1,590,000
	天 栄 村 分 区	857,000	831,600	0	831,600	97.0	834,800
	石 川 町 分 区	2,276,000	1,815,501	0	1,815,501	79.8	1,953,002
	玉 川 村 分 区	909,000	860,000	0	860,000	94.6	863,500
	平 田 村 分 区	919,000	827,500	0	827,500	90.0	836,500
	浅 川 町 分 区	895,000	853,709	0	853,709	95.4	860,600
	古 殿 町 分 区	889,000	813,000	0	813,000	91.5	834,500
	県 中 地 区 計	12,394,000	11,252,810	0	11,252,810	90.8	11,528,402
県 南	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
	西 郷 村 分 区	2,313,000	2,430,000	7,000	2,437,000	105.4	2,408,500
	泉 崎 村 分 区	798,000	834,000	0	834,000	104.5	814,500
	中 島 村 分 区	661,000	566,500	0	566,500	85.7	572,000
	矢 吹 町 分 区	2,152,000	2,077,850	0	2,077,850	96.6	2,142,600
	棚 倉 町 分 区	2,024,000	2,380,500	0	2,380,500	117.6	1,961,000
	矢 祭 町 分 区	910,000	827,500	0	827,500	90.9	829,500
	塙 町 分 区	1,631,000	1,516,340	0	1,516,340	93.0	1,608,280
	鮫 川 村 分 区	594,000	582,000	0	582,000	98.0	600,000
	県 南 地 区 計	11,083,000	11,214,690	7,000	11,221,690	101.3	10,936,380
会 津	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
	磐 梯 町 分 区	565,000	528,000	0	528,000	93.5	533,000
	猪 苗 代 町 分 区	2,529,000	2,555,602	0	2,555,602	101.1	2,513,964
	北 塩 原 村 分 区	527,000	892,700	0	892,700	169.4	459,300
	西 会 津 町 分 区	1,382,000	1,184,001	0	1,184,001	85.7	1,233,000
	会 津 坂 下 町 分 区	1,992,000	1,574,500	0	1,574,500	79.0	1,563,860
	湯 川 村 分 区	438,000	633,000	0	633,000	144.5	426,000
	柳 津 町 分 区	622,000	611,013	0	611,013	98.2	555,000
	会 津 美 里 町 分 区	3,231,000	2,956,960	0	2,956,960	91.5	3,149,000
	三 島 町 分 区	385,000	1,341,000	500,000	1,841,000	478.2	1,345,000
	金 山 町 分 区	568,000	503,000	0	503,000	88.6	505,500
	昭 和 村 分 区	401,000	391,500	0	391,500	97.6	902,500
	会 津 地 区 計	12,640,000	13,171,276	500,000	13,671,276	108.2	13,186,124
南 会 津	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
	南 会 津 町 分 区	2,922,000	2,576,500	1,000	2,577,500	88.2	2,836,500
	下 郷 町 分 区	1,088,000	1,088,392	8,000	1,096,392	100.8	1,120,952
	檜 枝 岐 村 分 区	118,000	100,500	0	100,500	85.2	102,500
	只 見 町 分 区	959,000	670,000	0	670,000	69.9	665,500
南 会 津 地 区 計	5,087,000	4,435,392	9,000	4,444,392	87.4	4,725,452	
相 双	分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
	新 地 町 分 区	1,189,000	1,154,500	0	1,154,500	97.1	1,715,500
	飯 館 村 分 区	310,000	1,300,800	0	1,300,800	419.6	1,392,000
	双 葉 町 分 区	100,000	246,600	0	246,600	246.6	841,000
	檜 葉 町 分 区	733,000	1,460,000	0	1,460,000	199.2	1,247,800
	広 野 町 分 区	500,000	607,000	0	607,000	121.4	596,500
	富 岡 町 分 区	300,000	20,000	0	20,000	6.7	40,000
	川 内 村 分 区	344,000	768,500	0	768,500	223.4	756,500
	大 熊 町 分 区	130,000	1,138,623	0	1,138,623	875.9	1,173,592
	浪 江 町 分 区	318,000	230,000	0	230,000	72.3	329,400
葛 尾 村 分 区	70,000	162,000	0	162,000	231.4	87,000	
相 双 地 区 計	3,994,000	7,088,023	0	7,088,023	177.5	8,179,292	



分 区 名	目 標 額 (円)	一般社資実績額 (円)	法人社資実績額 (円)	実績合計額 (円)	達 成 率 (%)	前年度実績額 (円)
郡 地 区 計	52,175,000	54,262,791	516,000	54,778,791	105.0	55,725,810
地 区 分 区 計	253,104,000	238,410,668	7,925,941	246,336,609	97.3	244,913,574

支 部	支部直接(個人)	6,000,000	63,341,755		63,341,755	1055.7	17,800,734
	支部直接(法人)	10,000,000		13,911,436	13,911,436	139.1	11,025,616
支 部 扱 合 計		16,000,000	63,341,755	13,911,436	77,253,191	482.8	28,826,350

一般社資合計	259,104,000	301,752,423	-	301,752,423	116.5	254,272,806
法人社資合計	10,000,000	-	21,837,377	21,837,377	218.4	19,467,118
福島県支部合計	269,104,000	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2	273,739,924

工 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額 (千円)			社資実績額 (円)			達成率 (%)
	一 般	法 人	合 計	一 般	法 人	合 計	
令和2年度	259,104	10,000	269,104	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3
平成26年度	255,335	8,000	263,335	266,524,268	15,934,934	282,459,202	107.3
平成25年度	251,685	8,000	259,685	267,102,167	20,592,171	287,694,338	110.8
平成24年度	256,269	10,000	266,269	250,382,306	8,776,731	259,159,037	97.3
平成23年度	277,000	23,000	300,000	190,215,205	7,837,845	198,053,050	66.0

2 表 彰

ア 社資功勞表彰

(ア) 紺綬褒章 【1件】

(社資500万円以上の個人並びに1,000万円以上の法人)

市 町 村	個 人	法 人
須 賀 川 市	1	

(イ) 厚生労働大臣感謝状 【5件】

(同一年度内に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人)

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市	2	1
須 賀 川 市	1	
三 島 町	1	

(ウ) 社長感謝状 【14件】

(金色有功章受章後の社資が50万円以上の都度)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	3
二 本 松 市		1
郡 山 市	1	
須 賀 川 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
会 津 若 松 市	1	1
南 相 馬 市	1	1
相 馬 市		2
飯 館 村	1	

(ク) 金色有功章 【24件】

(社資が50万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	2	5
郡 山 市	1	1
須 賀 川 市	1	
白 河 市		1
会 津 若 松 市	2	
喜 多 方 市	2	
国 見 町	1	
川 俣 町	1	

市 町 村	個 人	法 人
棚 倉 町	1	
北 塩 原 村	1	
三 島 町	1	
南 会 津 町		1
双 葉 町	1	
東 京 都 千 代 田 区		1
東 京 都 文 京 区	1	

(カ) 銀色有功章 【26件】

(社資が20万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	1	11
伊 達 市	2	
二 本 松 市	2	
郡 山 市	2	
田 村 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
喜 多 方 市	1	
い わ き 市	2	1
三 春 町		1
猪 苗 代 町	1	
湯 川 村	1	

イ 業務功勞表彰

(ウ) 役職功勞 【金色有功章1件、銀色有功章16件】

市 町 村	役 職	金 色 有 功 章	銀 色 有 功 章
郡 山 市	協賛委員		16
北 塩 原 村	分 区 長	1	

(イ) 奉仕団功勞 【社長感謝状20件 (金色有功章受章後活動年数10年以上)、金色有功章2件 (活動年数20年以上)】

市 町 村	社 長 感 謝 状	金 色 有 功 章
福 島 市	3	2
伊 達 市	1	
二 本 松 市	1	
田 村 市	1	
白 河 市	3	

市 町 村	社 長 感 謝 状	金 色 有 功 章
川 俣 町	1	
玉 川 村	1	
矢 吹 町	1	
中 島 村	1	
矢 祭 町	1	



市 町 村	社長感謝状	金色有功章
基 町	1	
鮫 川 村	1	
湯 川 村	1	

市 町 村	社長感謝状	金色有功章
会 津 美 里 町	1	
金 山 町	1	
葛 尾 村	1	

(ウ) 奉仕団員等奉仕者 【社長感謝状1件（金色有功章受章後活動年数10年以上）、金色有功章56件（活動年数20年以上）、銀色有功章145件（活動年数15年以上）】

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
福 島 市			1
伊 達 市		6	6
二 本 松 市		4	8
郡 山 市		10	4
田 村 市		3	1
会 津 若 松 市			17
喜 多 方 市		2	3
南 相 馬 市	1	1	4
相 馬 市			3
い わ き 市		8	33
国 見 町		1	
桑 折 町			6
三 春 町		1	3
平 田 村			1
基 町		5	14

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
浅 川 町		1	2
古 殿 町		1	1
西 郷 村		4	3
泉 崎 村			10
北 塩 原 村			2
湯 川 村			4
柳 津 町		2	5
会 津 美 里 町		2	2
南 会 津 町			4
只 見 町			6
新 地 町		1	
飯 舘 村		2	2
富 岡 町		1	
茨 城 県 守 谷 市		1	

(エ) 献血者 【金色有功章135件（献血100回以上）、銀色有功章165件（献血70回以上）】

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	43	37
伊 達 市	11	9
二 本 松 市	3	7
本 宮 市	3	5
郡 山 市	23	34
田 村 市	3	6
須 賀 川 市	2	4
白 河 市	2	2
会 津 若 松 市	4	6
喜 多 方 市	1	2
南 相 馬 市	1	2
相 馬 市		1
い わ き 市	22	34
川 俣 町		2
桑 折 町		3
大 玉 村	1	1
三 春 町	1	

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
小 野 町		1
鏡 石 町	1	
天 栄 村		1
石 川 町	2	1
玉 川 村	1	
平 田 村	1	1
西 郷 村		2
矢 吹 町		1
矢 祭 町	1	
磐 梯 町	1	
猪 苗 代 町	1	1
会 津 美 里 町	1	
南 会 津 町	2	1
新 地 町	2	
川 内 村	1	
浪 江 町	1	
葛 尾 村		1

3 優良地区・分区の表彰

社資増強運動推進の結果、社資目標額に対し実績額が特に顕著な地区・分区に「日本赤十字社福島県支部社資功労表彰要綱」により表彰を行った。

社資目標額に対して150%以上の実績を収めた分区【3分区】

地区・分区名	社資目標額	社資実績額	達成率
北塩原村分区	527,000円	892,000円	169.4%
三島町分区	385,000円	1,841,000円	478.2%
川内村分区	344,000円	768,500円	223.4%

4 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和2.9.1現在）

名称	結成	会長名	会員数					事務局
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計	
1 福島市地区有功会	H6.4.12	小田 長次	23	50	0	0	73	福島市地区
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	23	37	37	0	97	郡山市地区
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	猪狩 正明	31	48	0	0	79	いわき市地区
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	宮森 泰弘	62	10	0	0	72	会津若松市地区
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	武藤 顕夫	148	0	3	11	162	喜多方市地区
6 田村市地区有功会	H18.3.23	今泉 富代	7	1	12	1	21	田村市地区
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	猪又 輝雄	2	3	0	0	5	相馬市地区
8 伊達地方有功会	H6.3.24	浅野 榮	12	2	29	2	45	伊達市地区
9 安達地方有功会	S44.2.15	佐藤 興司	30	15	33	0	78	二本松市地区
10 県中地区有功会	H17.6.16	遠藤 臣一	17	4	0	0	21	県中地区
11 会津地区有功会	H18.5.31	鈴木 政英	73	13	89	195	370	会津地区
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	25	4	3	10	42	南会津地区
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	19	11	0	0	30	相双地区
14 双葉地方有功会	H6.4.19	菊地 政子	9	1	0	0	10	相双地区
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恭一	20	0	27	36	83	猪苗代町分区
会津地区にも重複加入している猪苗代町の会員			-19	0	-23	-29	-71	
合 計			482	199	210	226	1,117	



5 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①有功会連合会総会	6月23日(火)	郡山市	文書審議
②紺綬・有功会会長協議会総会	10月1日(木)~2日(金)	伊勢市	文書審議
③福島県有功会員交流会	11月	郡山市	資料送付
④有功会運営協議会	令和3年3月	福島県支部	文書審議

6 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①地区区分担当課長・担当国会議	4月21日(火)	福島市内	資料送付
②全国赤十字大会	5月21日(木)	東京都	中止
③地区・分区新任担当者研修会	5月下旬	福島県支部	中止
④地区長会議	令和3年1月19日(火)	福島県支部	文書審議

15 会計報告

① 令和2年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
社 資 収 入	323,589,800	災 害 救 護 事 業 費	334,952,383
委 託 金 等 収 入	1,521,875	社 会 活 動 費	86,201,164
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	35,190,512	国 際 活 動 費	1,147,000
災 害 義 援 金 預 り 金 収 入	179,579,864	指 定 事 業 地 方 振 興 費	3,800,000
繰 入 金 収 入	181,335,008	地 区 分 区 交 付 金 支 出	47,640,220
貸 付 金 償 還 金 収 入	6,660,000	社 業 振 興 費	28,710,303
雑 収 入	2,125,379	基 盤 整 備 交 付 金 ・ 補 助 金 支 出	10,910,000
前 年 度 繰 越 金	59,430,076	償 還 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	92,835,121
		総 務 管 理 費	36,044,946
		資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	8,764,573
		本 社 送 納 金 支 出	47,128,470
計	789,432,514	計	704,794,180
収 入 支 出 差 引 額	84,638,334		

② 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益の収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
医 業 収 益	7,013,736,443	医 業 費 用	7,967,241,550
医 業 外 収 益	1,550,074,830	医 業 外 費 用	28,621,496
医 療 社 会 事 業 収 益	605,966	医 療 奉 仕 費 用	91,095,949
付 帯 事 業 収 益	36,265,950	付 帯 事 業 費 用	36,540,339
特 別 利 益	3,558,561	特 別 損 失	126,964,643
		法 人 税 等	877,243
計	8,604,241,750	計	8,251,341,220
収 入 支 出 差 引 額	352,900,530		

資本的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
固 定 負 債	241,008,680	固 定 資 産	293,699,934
資 産 売 却 収 入	0	借 入 金 等 償 還	263,712,242
そ の 他 資 本 収 入	316,403,496		
計	557,412,176	計	557,412,176
収 入 支 出 差 引 額	0		

16

日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和3年6月1日現在)

役職名	氏名	公職名
支部長	内堀 雅雄	福島県知事
副支部長	井出 孝利	福島県副知事
監査委員	猪狩 正明	福島県法人会連合会長
//	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長
//	村瀬 久子	元福島県保健福祉部長
本社理事	小櫻 輝	会社役員
代議員	小櫻 輝	会社役員
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長
//	星 光政	元福島県支部事務局長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	越智 正典	前日赤県支部有功会連合会長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評議員	野田 幸一	福島市健康福祉部長
//	高村 劼	福島市地区有功会理事
//	阿部 隆	福島市地区有功会理事
//	佐藤 和子	福島市平野赤十字奉仕団委員長
//	藤森佐智子	会津若松市健康福祉部長
//	弓田 忠男	会津若松市地区有功会理事
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会長
//	齋藤 吉男	郡山市献血推進協会会長代行・副会長
//	本田 文男	郡山市保健福祉部長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長
//	強口 暢子	いわき市社会福祉協議会長
//	飯尾 仁	いわき市保健福祉部長
//	矢吹 和義	平地区保健福祉センター所長
//	高木のぶ子	いわき支部赤十字奉仕団連絡協議会長
//	伊藤 公一	白河市保健福祉部長
//	野崎 秀雄	須賀川市市民福祉部長
//	齋藤 勇	喜多方市社会福祉協議会長
//	今野 大	相馬市社会福祉協議会常務理事・事務局長
//	安齋 英雄	二本松市社会福祉協議会長
//	吉田 英一	田村市保健福祉部長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長
//	佐藤 直子	伊達市健康福祉部長

役職名	氏名	公職名
評議員	辻本 弘月	本宮市保健福祉部長
//	引地 真	国見町長
//	澤村 和明	平田村長
//	村上 昭正	小野町長
//	久保木正大	泉崎村長
//	湯座 一平	棚倉町長
//	前後 公	猪苗代町長
//	押部源二郎	金山町長
//	渡部進一郎	南会津地区有功会長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	佐藤 功	前広野町赤十字奉仕団委員長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
//	芳見 弘一	福島民報社代表取締役社長
//	安齋 睦男	福島県社会福祉協議会副会長
//	中川 俊哉	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	横山 貴英	青少年赤十字福島県指導者協議会長
//	越智 正典	前日赤県支部有功会連合会長
支部参与	伊藤 剛	福島県保健福祉部長
//	有我 兼一	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	新妻 政弘	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	風間 秀元	福島県保健福祉部業務課長
//	大島 幸一	福島県危機管理部長
//	平野井 徹	福島県危機管理部災害対策課長
//	鈴木 淳一	福島県教育委員会教育長
//	本田 伸雄	福島県教育庁政策監
//	渋川 卓也	福島県教育庁社会教育課長
//	石幡 良子	福島県教育庁義務教育課長
//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	太田 久雄	元日赤県支部事務局長
//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長
//	篠木 敏明	前日赤県支部事務局長

令和2年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和3年3月31日現在)

■沿革

- 明治22年(1889) 6月…日本赤十字社福島県委員部発足
- 明治27年(1894) 1月…福島県委員部を福島支部と改称
- 昭和18年(1943) 8月…福島療院開設
- 昭和19年(1944) 8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
- 昭和27年(1952) 10月…日本赤十字社福島県支部と改称
- 昭和37年(1962) 2月…福島赤十字病院移転新築
- 昭和46年(1971) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
- 昭和46年(1971) 4月…福島県赤十字血液センター開設
- 昭和56年(1981) 4月…福島県会津赤十字血液センター開設
- 昭和61年(1986) 4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
- 昭和63年(1988) 11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
- 平成10年(1998) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
- 平成10年(1998) 4月…福島県赤十字血液センター移転新築
- 平成11年(1999) 11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
- 平成13年(2001) 9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
- 平成18年(2006) 7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転(リニューアル)
- 平成23年(2011) 11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
- 平成24年(2012) 3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
- 平成27年(2015) 6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
- 平成29年(2017) 2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
- 平成31年(2019) 1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………(個人) 3,006名、(法人) 865法人

■評議員……………39名

■役員 支部長 内堀 雅雄 副支部長 井出 孝利
 監査委員 3名 参 与 16名

■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	18名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	604名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	58名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	14名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	17名
福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所(郡山駅前献血ルーム)	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	13名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	9名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市粟津字粟津18番地7	0244-35-6066	4名

■ 県市町村組織

	合計数	郡	市	町 村
地 区	19	6	13	-
分 区	108	-	62	46
計	127	6	75	46

■ 災害救護

救護班・救護員	8班・311名	
無 線 局	基地局 2局、移動局 47局	
救 援 車 両	11台	
救 援 物 資 (在 庫 数)	毛布	2,301枚
	バスタオル	6,003枚
	緊急セット	3,425個
	安眠セット	592個
	タオルケット	600枚

■ 医療事業

施 設 名	福島赤十字病院		
診 療 科 ・ 病 床 総 数	25科 296床		
患 者 数	入院	81,831名 / 1日平均 224.2名	
	外来	132,646名 / 1日平均 581.8名	

■ 血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL 換算)	
成 分 献 血	24,272名	赤 血 球 製 剤	104,633単位
400mL 献 血	50,598名	血 漿 製 剤	25,586単位
200mL 献 血	1,365名	血 小 板 製 剤	102,480単位
合 計	76,235名	合 計	232,699単位

■ 青少年赤十字

幼 稚 園	17校	629人
小 学 校	417校	80,896人
中 学 校	215校	44,029人
高 等 学 校	32校	4,046人
特別支援学校	4校	289人
義務教育学校	3校	492人
合 計	688校	130,381人
研究推進指定校	小学校 3校、中学校 3校	

■ 赤十字奉仕団

地 域	106団	9,165名
青 年	5団	141名
特 殊	34団	1,209名
合 計	145団	10,515名
指 導 講 師	7名	

■ 講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	110名	2,088名
水 上 安 全 法	16名	1,006名
幼 児 安 全 法	43名	523名
健康生活支援講習	26名	498名
防 災 セ ミ ナ ー		233名
合計 (重複除く)	124名	4,348名

■ 看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字秋田看護大学	13名
日本赤十字看護大学	1名
日本赤十字北海道看護大学	1名
合 計	15名

■ 国際活動

第一ブロック 支部参加事業	総 額	7,000,000円 (1,147,000円)
	救急法普及支援事業	
	東ティモール	1,500,000円 (247,000円)
	ラオス	3,000,000円 (492,000円)
	青少年赤十字海外支援事業	
ネパール	1,250,000円 (204,000円)	
バヌアツ	1,250,000円 (204,000円)	

※ (内は福島県支部の負担金額)

赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

活動資金への協力方法

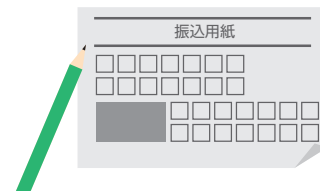
- 地域の自治会や町内会の中でご協力いただく方法。



- 最寄りの市町村／社会福祉協議会の赤十字の窓口へ申し込みいただく方法。



- 日赤の振込用紙でご協力いただく方法。(振込手数料無料)




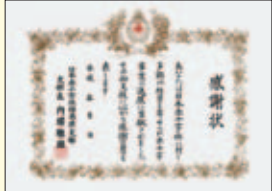








◎日本赤十字社の創立記念日である5月1日から1ヵ月間は、赤十字運動月間として特に広く社員加入のご案内をしています。

●日本赤十字社の表彰

表彰種別	表彰の基準	贈与される表彰品
特別社員	一時又は数次（10年以内）に2万円以上のご協力をいただいた方	特別社員称号贈与通知書、金色バッジ（個人のみ）、陶器製門標（個人のみ）
支部長感謝状	一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力をいただいた方	感謝状
銀色有功章	一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力をいただいた方	銀色有功章（楯）、陶器製門標（大）（個人のみ）、略章
金色有功章	一時又は累計で50万円以上のご協力をいただいた方	個人：金色有功章、章記、略章 法人：金色有功章（楯）、略章

※年間100万円以上のご協力については、上記以外の表彰もございますので、詳しくは当支部までお問合せ下さい。

特別社員	 <p>称号贈与通知書</p>  <p>金色バッジ</p>  <p>陶器製門標 日赤太郎</p>	支部長感謝状	 <p>感謝状</p>
銀色有功章	 <p>楯</p>  <p>略章</p>  <p>陶器製門標 日赤太郎</p>	金色有功章	 <p>金色有功章（男性用）</p>  <p>金色有功章（女性用）</p>  <p>章記</p>  <p>略章</p>

●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置（要旨）

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通年	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで）から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法第37条の2及び同法施行令第7条の17	通年 (募集金額上限に達した時点で終了)	総理大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額(ただし上限は寄付者の年間所得総額の30%まで)から2千円差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。(居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用)
	相続税の非課税	租税特別措置法第70条	通年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除(指定寄付金)	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 (募集金額上限に達した時点で終了)	財務大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわらず損金の額に算入されます。
	法人税の控除(特定公益増進法人に対する寄付金)	法人税法第37条第4項	通年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。



日本赤十字社キャラクター

ハートラちゃん

日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

☐ 総務課 ☎ (024) 545-7997 ☎ (024) 545-7923
☐ 組織振興課 ☎ (024) 545-7998 ☎ (024) 545-7924
☐ 事業推進課 ☎ (024) 545-7996 ☎ (024) 545-7923

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>